

令和 7 年度
宮城県高等学校野球連盟
第 3 回理事会・第 2 回評議員会
資料編



日 時 令和 7 年 1 月 26 日 (金)

理事会 9 : 0 0

評議員会 13 : 0 0

場 所 秋保温泉 ホテルニュー水戸屋

1 2025年度 会務・事業・行事報告

月 日	会務・事業・行事等
1) 3.9	宮城県高等学校野球連盟第1回審判講習会(仙台育英学園高校G)
2) 4.11	宮城県高等学校野球連盟第1回理事会・第1回評議員会(大和町まほろばホール)
3) 4.19~	第19回春季宮城県高等学校野球大会地区大会(中部・南部)
4) 4.26~	第19回春季宮城県高等学校野球大会地区大会(東部・北部)
5) 4.25	令和7年度第2回都道府県高等学校野球連盟理事長・専務理事会議(中沢佐伯記念館)
6) 4.25	令和7年度東北地区高等学校野球連盟臨時理事長会議(中沢佐伯記念館)
7) 4.27	NPB・福井県 「夢の向こうに」準備委員会(福井県鯖江市)
8) 5.7	宮城県高等学校体育連盟第1回常任理事会・理事会・評議員会(ホテル白萩)
9) 5.7	宮城県高等学校野球連盟第1回強化育成部会(仙台工業高校)
10) 5.8	第72回春季東北地区高等学校野球宮城県大会抽選会 第1回運営委員会(仙台工業高等学校)
11) 5.9	第73回宮城県高等学校軟式野球春季大会抽選会(仙台第一高校)
12) 5.15	第72回春季東北地区高等学校野球宮城県大会 第2回運営委員会(仙台工業高等学校)
13) 5.22	日本高等学校野球連盟令和7年度第1回評議員会(中之島フェスティバルタワー)
14) 5.16~25	第72回春季東北地区高等学校野球宮城県大会(石巻市民球場ほか) 優勝:仙台育英 10-2 準優勝:聖和学園 第3位:東陵 5-2 石巻工 (6大会連続29回目)
15) 5.18~26	第73回宮城県高等学校軟式野球春季大会(利府中央公園野球場ほか) 優勝:東北 5-2 準優勝:仙台商
16) 5.26	宮城県高等学校野球連盟地区大会検討委員会(仙台高等学校)
17) 5.29	宮城県高等学校野球連盟第2回常任理事会(仙台工業高校)
18) 5.31~6.1	令和7年度東北地区高等学校野球連盟審判講習会(山形県中山町) 審判団4名参加
19) 6.2	宮城県高等学校野球連盟第1回普及振興部会(仙台東高校)
20) 6.3	第72回春季東北地区高等学校野球大会 第19回春季東北地区高等学校軟式野球大会抽選会(仙台工業高校 Web抽選)
21) 6.9	令和7年度東北地区高等学校野球連盟第1回役員会(山形県中山町中央公民館)
22) 6.10~14	第72回春季東北地区高等学校野球大会(山形県ヤマリヨウスタジアムほか) 第19回春季東北地区高等学校軟式野球大会(山形県天童市スポーツセンター野球場) 【硬式】1回戦 仙台育英 4-3 明桜(秋田) 聖和学園 3-2 青森北 準々決勝 青森山田 4-8 仙台育英 聖和学園 6-7(T11) 能城松陽(秋田) 準決勝 聖光学院(福島) 0-3 仙台育英 決勝 仙台育英 7-2 八戸学院光星(青森) 8年ぶり13回目の優勝 【軟式】1回戦 盛岡第一(岩手) 0-8(7C) 仙台商業 五所川原第一(青森) 0-12(5C) 東北 準決勝 秋田商業 2-1(T10) 仙台商業 東北 0-1 専大北上(岩手) 3位決定戦 仙台商業 5-1 東北
23) 6.15	宮城県高等学校野球連盟第2回審判講習会(鷹来の森運動公園野球場)
25) 6.18	宮城県高等学校野球連盟第2回理事会(仙台工業高校)
26) 6.19	第70回全国高等学校軟式野球選手権宮城大会抽選会(仙台青陵高校)
27) 6.23	第107回全国高等学校野球選手権記念宮城大会第1回運営委員会(仙台工業高校)
28) 6.25	第107回全国高等学校野球選手権記念宮城大会第2回運営委員会(仙台工業高校)
29) 6.26	第107回全国高等学校野球選手権記念宮城大会抽選会 第3回運営委員会(松島町文化観光交流館)
30) 7.5~7.9	第70回全国高等学校軟式野球選手権宮城大会(仙台市民球場ほか) 代表決定戦 仙台青陵 1-9 仙台育英 仙台商 3-2 尚絅学院
31) 7.8	第107回全国高等学校野球選手権記念宮城大会第4回運営委員会(楽天生命パーク)
32) 7.9~28	第107回全国高等学校野球選手権記念宮城大会(楽天生命パークほか) 優勝:仙台育英 10-0 準優勝:東北学院榴ヶ岡 優秀選手 吉川陽大(仙台育英) 佐々木健人(榴ヶ岡) 赤間朔(東陵) 藤田拓実(仙台一)
33) 7.29	第70回全国高等学校軟式野球選手権東北大会責任教師会議(利府球場)
34) 7.30~31	第70回全国高等学校軟式野球選手権東北大会(利府球場) 準決勝 仙台育英 9-2 盛岡一(岩手) 仙台商 0-3 専大北上(岩手) 決勝 仙台育英 0-2 専大北上
35) 8.1	宮城県高等学校野球連盟審判規則委員会(石巻市民球場)
36) 8.2~4	宮城県高等学校野球連盟創設75周年記念選抜交流試合(石川県珠洲球場ほか) 奥能登選抜 3-9 宮城選抜 震災見学
37) 8.5	日本高等学校野球連盟全国会長会議・全国理事長講習会(ホテルヒューリット)
38) 8.5~23	第107回全国高等学校野球選手権記念大会(阪神甲子園球場) 1回戦 鳥取城北 0-5 仙台育英 2回戦 開星(島根) 2-6 仙台育英 3回戦 沖縄尚学 5-3 仙台育英 (ベスト16) 優勝 沖縄尚学
39) 8.25~30	第70回全国高等学校軟式野球選手権記念大会(明石トーカロ球場ほか) 仙台育英:歴代優勝校として開会式参加
40) 9.5	第78回秋季東北地区高等学校野球宮城県大会抽選会 第1回運営委員会(仙台工業高等学校)
41) 9.9~12	WBSC視察(沖縄県) 理事長招集
42) 9.12~23	第78回秋季東北地区高等学校野球宮城県大会(仙台市民球場ほか) 優勝:仙台育英 2-1 準優勝:東北 第3位 名取北 10-5 気仙沼 (東北大会初出場) 優秀選手

月 日	会 務 ・ 事 業 ・ 行 事 等
4 3) 9.28~10.2	わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025 (マイネットスタジアム皇子山) 1回戦 仙台育英 4-0 日大三(東京) 準決勝 仙台育英 4-5 高川学園(山口) 第3位
4 4) 9.30	宮城県高等学校野球連盟第3回地区代表検討委員会(仙台二高校)
4 5) 10.3~8	第37回秋季東北地区高等学校軟式野球宮城県大会 兼 第66回宮城県高等学校軟式野球秋季大会 優勝 仙台商業 8-4 東北学院
4 6) 10.8	令和7年度東北地区高等学校野球連盟第2回役員会(岩手県 きたぎんボールパーク会議室)
4 7) 10・8~16	第78回秋季東北地区高等学校野球大会(岩手県 きたぎんボールパークほか) 1回戦 名取北 1-3 鶴岡東(山形) 2回戦 東北 8-0 日大東北(福島) 仙台育英 14-0(6c) 秋田中央 準々決勝 仙台育英 1-4 聖光学院(福島) 東北 9-1 日大山形 準決勝 東北 1-4 花巻東(岩手) 優勝:花巻東
4 8) 10.9	選抜選考委員と東北地区高等学校野球連盟との意見交換会(きたぎんボールパーク会議室)
4 9) 10.19	宮城県高等学校野球連盟第3回審判講習会(名取市民球場)
5 0) 10.17~19	第78回秋季東海地区高等学校野球大会視察(理事長、清野常任理事参加)
5 1) 10.24	東北地区高等学校野球連盟臨時理事長会議(青森県 弘前はるか夢球場会議室)
5 2) 10.25~29	第37回秋季東北地区高等学校軟式野球大会(青森県 弘前はるか夢球場) 1回戦 仙台商 2-3 専大北上(岩手) 東北学院 7-0(7c) 弘前・五所川原第一(青森) 準決勝 東北学院 4-3 専大北上 決勝 東北学院 5-6(T10) 能代(秋田) ※準優勝
5 3) 10.22	第1回 「夢の向こうに」実行委員会(仙台工業高等学校)
5 4) 10.27	宮城県高等学校野球連盟第4回地区代表検討委員会(仙台二高校)
5 5) 11.8~9	第2回東北・北海道交流試合 (石巻市民球場) 仙台育英 6-3 旭川実業 仙台育英 7-3 白樺学園
5 6) 11.10	宮城県高等学校野球連盟第98回選抜21世紀枠推薦校表彰(名取北高等学校)
5 7) 11.15	宮城県高等学校野球連盟付属審判団総会(ベルエア仙台)
5 8) 11.13~16	第55回明治神宮野球大会(明治神宮野球場)
5 9) 11.14	第98回選抜高等学校野球大会九地区21世紀枠選考会議(神宮球場)
6 0) 11.15	東北地区高等学校野球連盟臨時理事長会議(神宮球場)・全日本野球会議(富樫、佐伯参加)
6 1) 11.15・16	軟式部強化事業(仙台商業高校) 岐阜:中京高校招待
6 2) 11.23	第10回石巻野球フェスティバル(石巻市民球場) 理事長、利根川、佐藤光、石川、遠藤和、榊、阿部克参加
6 3) 12.3	宮城県高等学校野球連盟第4回常任理事会(仙台工業高校)
6 4) 12.5	日本高等学校野球連盟第2回全国理事長会議(アサコムホール)
6 5) 12.6	宮城県高等学校野球連盟リーダー研修会・アナウンス講習会(仙台工業高等学校)
6 6) 12.6	宮城県高等学校野球連盟第5回地区代表検討委員会(仙台二高校)
6 7) 12.7	宮城県高等学校野球連盟栄養講座(東北保健医療専門学校)
6 8) 12.11	宮城県高等学校体育連盟理事会(ホテル白萩) 事務局長代理参加
6 9) 12.12	宮城県野球団体協議会表彰式(ホテルベルエア仙台) 東北学院榴ヶ岡:佐藤
7 0) 12.12	宮城県高等学校野球連盟と中学校野球専門部との意見交換会(仙台東高校) 普及振興部参加
7 1) 12.11~14	「夢の向こうにin福井」視察 理事長、後藤、平塚、松井、岩村、安井参加
7 2) 12.13~14	宮城県高等学校野球連盟メンタル講習会
7 3) 12.22	東北地区高等学校野球連盟臨時理事長会議(ルートイン名取)
7 4) 12.23	東北地区高等学校野球連盟第97回選抜21世紀枠候補校表彰(名取北高等学校)
7 5) 12.26	宮城県高等学校野球連盟第3回理事会 第2回評議員会 監督会(ホテルニューウエスト)
7 6) 12.26	令和7年度宮城県高等学校野球連盟指導者講座 講師:広島県武田高等学校野球部監督:岡崎雄介氏「50分の挑戦」
【今後の予定】	
7 7) 1.14~15	東北地区高等学校野球連盟第3回役員会 200年構想情報交換会 (鳴子温泉)
7 8) 1.30	第98回選抜高等学校野球大会選考会議(毎日新聞オーバルホール)
7 9) 1.31	宮城県高等学校野球連盟第6回常任理事会(仙台工業高等学校)
8 0) 2.7	宮城県高等学校野球連盟第4回理事会(仙台工業高等学校)
8 1) 2.17	宮城県高等学校野球連盟第2回普及振興部会(仙台東)
8 2) 2.20	日本高等学校野球連盟第4回全国理事長専務理事会議(甲子園歴史館) 【昨年度行われた事業】
8 3) 2.21	東北地区臨時理事長・軟式部委員長会議(アークホテル盛岡)
8 5) 2.22	宮城県高等学校野球連盟普及振興部会 「楽天とのコラボ野球教室」(東北学院榴ヶ岡高校)
	3.17 令和7年度日本高等学校野球連盟第1回全国理事長専務理事会議(甲子園歴史館)
※ 3.18~	第97回選抜高等学校野球大会(阪神甲子園球場)
※ 3.9	宮城県高等学校野球連盟第1回審判講習会

不祥事件関係⑥

H30(15件) R1(30件) R2(13件) R3 (27件) R4(36件) R5(27件) R6(21件)

番号	月日	学校名	内 容	処 分 結 果
1	5.8		3年生部員1名 不適切画像所持	宮城県高野連会長注意
2	5.23		3年生部員1名 原付二人乗り(交通違反)	宮城県高野連会長注意
3	6.10		1年生部員1名 死亡事故	日本高野連報告
4	6.11		3年生部員1名 不適切画像所持	宮城県高野連会長注意
5	6.13		野球部顧問 学生野球規則違反(登録)	宮城県高野連会長厳重注意
6	6.23		3年生部員1名 喫煙行為	宮城県高野連会長注意
7	7.14		2年生部員1名 喫煙行為	宮城県高野連会長注意
8	9.1		3年生部員2名 喫煙・飲酒行為	宮城県高野連会長注意
9	9.8		1年生部員1名 暴力行為	宮城県高野連会長注意
10	9.16		2年生部員1名 いやがらせ行為	宮城県高野連会長注意
11	10.10		1年生部員1名 喫煙行為	宮城県高野連会長注意
12	10.29		2年生部員1名 暴力行為	宮城県高野連会長注意(改善命令計画書提出)
13	11.7		軟式部長 わいせつ行為	日本高野連報告
14	11.12		1年生部員1名 いやがらせ行為	宮城県高野連会長注意
15	11.26		2年生部員1名 1年生部員1名 いやがらせ行為	宮城県高野連会長注意
16	12.10		1年生部員1名 喫煙行為	宮城県高野連会長注意
17				
18				
19				
20				

令和7年度 中学生（3年生）の体験入部 実施状況

学校名	月日	曜	実施時間	主な内容	参加人数
宮城工	7.26	土	13:00~16:00	アップ、キャッチボール、守備・打撃練習、ダウン	
	8.10	日	13:00~16:00	アップ、キャッチボール、守備・打撃練習、ダウン	
	10.18	土	13:00~16:00	アップ、キャッチボール、守備・打撃練習、ダウン	
名取北	7.31	木	9:00~12:00	キャッチボール、打撃・守備練習、ランニング	16名
	10.19	日	9:00~12:00	キャッチボール、打撃・守備練習、ランニング	41名
柴田	8.2	土	10:10~12:00	アップ、キャッチボール、ノック、フリー打撃、ダウン	23名
	10.5	日	10:10~12:00	アップ、キャッチボール、ノック、フリー打撃、ダウン	16名
仙台三	8.3	日	9:00~13:00	講話、キャッチボール、打撃・守備練習、ランニング	33名
	11.3	月	9:00~13:00	講話、キャッチボール、打撃・守備練習、ランニング	19名
東陵	8.3	日	9:00~16:00	アップ、キャッチボール、フリーバッティング、ノック	27名
	8.10	日	9:00~16:00	アップ、キャッチボール、フリーバッティング、ノック	11名
	8.11	月	9:00~16:00	アップ、キャッチボール、フリーバッティング、ノック	23名
	8.17	日	9:00~16:00	アップ、キャッチボール、フリーバッティング、ノック	40名
	9.28	日	9:00~16:00	アップ、キャッチボール、フリーバッティング、ノック	12名
	10.5	日	9:00~16:00	アップ、キャッチボール、フリーバッティング、ノック	29名
石巻	7.26	土	9:00~12:00	アップ、守備・打撃体験、ダウン、相談会	31名
	10.13	月	9:00~12:00	アップ、シートノック、打撃指導、ピッ칭ング	11名
東北生文大	8.2	土	9:00~11:00	キャッチボール、ノック、バッティング	19名
	8.23	土	9:00~11:00	キャッチボール、ノック、バッティング	中止
	9.13	土	9:00~11:00	キャッチボール、ノック、バッティング	中止
	10.25	土	9:00~11:00	キャッチボール、ノック、バッティング	24名
古川黎明	7.26	土	8:00~11:00	アップ、キャッチボール、シートノック、バッティング	6名
	9.28	日	8:00~11:00	アップ、キャッチボール、シートノック、バッティング	中止
利府	7.29	火	10:00~12:00	学校説明、アップ、キャッチボール、守備・打撃練習、ダウン	62名
	9.27	土	10:00~12:00	学校説明、アップ、キャッチボール、守備・打撃練習、ダウン	20名
仙台西	7.31	木	10:50~14:10	アップ・キャッチボール・ノック	9名
古川学園	8.3	日	13:00~15:00	アップ、キャッチボール、シートノック、バッティング、投球練習	34名
	8.30	土	13:00~15:00	アップ、キャッチボール、シートノック、バッティング、投球練習	8名
宮城広瀬	7.30	水	10:50~11:50	ゴロ捕球、打撃練習	6名
	10.15	水	14:40~16:00	アップ、キャッチボール、打撃・守備練習	4名
	10.25	土	9:30~11:30	アップ、キャッチボール、打撃・守備練習	1名
	11.3	月	9:30~11:30	アップ、キャッチボール、打撃・守備練習	3名
塩釜	10.4	土	13:20~15:30	キャッチボール、ペッパー、バッティング、投球練習	
築館	7.26	土	13:00~16:00	アップ、キャッチボール、ノック、バッティング	20名
松島	10.5	日	10:00~12:30	アップ、守備・打撃体験、ランニング	16名
仙商(硬)	8.2	土	9:30~11:00	野球部講話、キャッチボール、バッティング練習	20名
仙商(軟)	8.2	土	9:30~11:00	野球部講話、キャッチボール、バッティング練習	28名
仙台一	7.26	土	9:00~12:00	アップ、守備・打撃体験、トレーニング	
	10.4	土	9:00~12:00	アップ、守備・打撃体験、トレーニング	
加美農	7.26	土	13:00~15:00	アップ、キャッチボール、ノック、バッティング	12名
	8.9	土	10:00~12:00	アップ、キャッチボール、ノック、バッティング	5名
	9.13	土	10:00~12:00	アップ、キャッチボール、ノック、バッティング	中止
	10.18	土	10:00~12:00	アップ、キャッチボール、ノック、バッティング	5名
小牛田農林	7.30	水	11:20~12:10	キャッチボール、フリー打撃	10名
	9.27	土	15:20~16:10	キャッチボール、フリー打撃	

古川工	7.24	木	12:30~15:00	アップ、トレーニング、バッティング	34名
	10.19	日	8:15~11:30	アップ、トレーニング、バッティング	12名
仙台城南	8.10	日	10:00~12:00	アップ、キャッチボール、バッティング、ノック、ダウン	45名
黒川	11.8	土	12:00~14:30	アップ、キャッチボール、守備・打撃体験、トレーニング	4名
大崎中央	10.25	土	10:00~12:00	アップ、キャッチボール。ノック、バッティング、ピッチング	3名
	11.15	土	10:00~12:00	アップ、キャッチボール。ノック、バッティング、ピッチング	11名
	11.22	土	10:00~12:00	アップ、キャッチボール。ノック、バッティング、ピッチング	10名
石巻工	7.25	金	13:00~16:00	キャッチボール、守備・打撃練習、トレーニング指導	43名
仙台二	8.2	土	8:30~12:30	キャッチボール、守備・打撃練習、ランニング	25名
日本ウェルネス	8.16	土	9:00~12:00	アップ、キャッチボール。ノック、バッティング	5人
	8.17	日	9:00~12:00	アップ、キャッチボール。ノック、バッティング	14人
	9.13	土	9:00~12:00	アップ、キャッチボール。ノック、バッティング	中止
	9.14	日	9:00~12:00	アップ、キャッチボール。ノック、バッティング	23人
聖和学園	7.26	土	9:00~12:00	アップ、キャッチボール、ノック、バッティング、ピッチング	31名
	8.23	土	9:00~12:00	アップ、キャッチボール、ノック、バッティング、ピッチング	39名
	9.27	土	9:00~12:00	アップ、キャッチボール、ノック、バッティング、ピッチング	30名

野球教室

学校名	月日	曜	実施時間	主な内容	参加人数
角田伊具	9.20	土	10:00~12:00	角田・丸森・柴田地区中学生対象 アップ、キャッチボール、守備・打撃練習、実戦形式練習	13名
仙台商業硬・軟式	11.30	日	8:00~15:00	鶴巻ドラゴンズ、折立ジャガーズ、大和クラブ、七郷少年野球クラブ他 交流試合補助および試合の合間に野球教室	160名
仙台商業硬・軟式	12.6	土	9:00~12:00	泉地区小学4・5・6年生 バッティング体験、キャッチボール、ノック体験	
築館・迫桜・岩ヶ崎	9.28	日	9:00~12:00	栗原市内の中学生1~3年生	13名
	10.19	日	9:00~12:00	アップ、走塁練習、キャッチボール、守備練習、打撃練習	14名
	11.16	日	9:00~12:00		8名
角田伊具	12.7	日	9:00~12:00	少年野球チーム(楢木スピリッツ、吉浜イーグルス他) アップ、キャッチボール、守備・打撃練習、実戦形式練習	66名

宮城県高校野球連盟 2026年度行事予定(案)

2025年10月現在

4月			5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
1 水			1 木		1 月		1 水		1 土	秋連合チーム締切	1 火		1 木		1 日		1 火	
2 木			2 土		2 火		2 木		2 日		2 水		2 金	青森国スポ(～6日)	2 月		2 水	
3 金			3 日		3 水	夏連合チーム締切 春季東北大会抽選会	3 金		3 月	甲子園抽選会	3 木		3 土	秋軟式(～10日)	3 火		3 木	
4 土			4 月		4 木		4 土	夏軟式(～9日)	4 火	秋予選会運営委員会	4 金	秋季県大会抽選会 第1回運営委	4 日		4 水		4 金	
5 日			5 火		5 金		5 日		5 水	甲子園開幕	5 土		5 月		5 木		5 土	リーダー研修会
6 月			6 水		6 土	高総体①	6 月		6 木		6 日		6 火		6 金		6 日	
7 火			7 木		7 日	高総体②	7 火		7 金	秋予選会抽選会	7 月		7 水		7 土	東北北海道交流大会	7 月	
8 水	(入学式)		8 金		8 月		8 水		8 土		8 火		8 木		8 日		8 火	
9 木			9 土		9 火	第1回東北地区役員会 東北大会開会式(青森)	9 木	選手権宮城大会開会式(夕方開催)	9 日		9 水		9 金		9 月		9 水	
10 金	春連合チーム締切		10 日		10 水	春季東北大会①	10 金	休養日	10 月		10 木		10 土		10 火		10 木	
11 土			11 月	春季県大会抽選会 第1回運営委	11 木	春季東北大会②	11 土	試合スタート	11 火		11 金	第2回運営委	11 日	第2回東北地区役員会(宮城)	11 水		11 金	
12 日			12 火		12 金	東北大会予備日	12 日		12 水		12 土	秋季県大会①	12 月	秋季東北大会	12 木		12 土	夢の向こうに(東北福祉大)
13 月			13 水		13 土	春季東北大会③	13 月		13 木		13 日	②	13 火	秋季東北大会	13 金		13 日	
14 火	理事会・評議員会(大和町まほろばホール)		14 木	第2回運営委	14 日	春季東北大会④	14 火		14 金		14 月	③	14 水	秋季東北大会	14 土		14 月	
15 水			15 金	春季県大会①	15 月		15 水		15 土		15 火	④	15 木	秋季東北大会	15 日		15 火	
16 木			16 土	②	16 火		16 木		16 日		16 水		16 金	秋季東北大会	16 月		16 水	
17 金			17 日	③	17 水	第2回理事会	17 金		17 月		17 木		17 土	秋季東北大会	17 火		17 木	
18 土			18 月	④	18 木		18 土		18 火		18 金		18 日	秋季東北大会	18 水		18 金	
19 日			19 火	予備日	19 金		19 日		19 水	秋季県大会(予選)	19 土	⑤準々決勝	19 月	秋季東北大会	19 木		19 土	メンタル講習会(～20日)
20 月			20 水	⑤	20 土		20 月		20 木		20 日	予備日	20 火		20 金		20 日	
21 火			21 木	予備日	21 日	第2回審判講習会	21 火		21 金		21 月	⑥準決勝	21 水		21 土		21 月	
22 水			22 金	予備日	22 月		22 水	準々決勝	22 土	秋季県大会(予選)	22 火	⑦決勝・3決	22 木		22 日		22 火	
23 木			23 土	⑥	23 火	選手資格締切	23 木	(予備日)	23 日	秋季県大会(予選)	23 水		23 金		23 月		23 水	
24 金			24 日	⑦決勝日	24 水		24 金	準決勝	24 月		24 木		24 土	軟式東北大会①(秋田)	24 火		24 木	
25 土			25 月		25 木	第2回運営委	25 土	(予備日)	25 火		25 金		25 日	軟式東北大会②	25 水		25 金	理事会・評議員会(東部)
26 日			26 火		26 金	選手権大会抽選会(松島町文化観光交流館)	26 日	決勝	26 水	秋季県大会(予選)	26 土		26 月	予備日	26 木		26 土	
27 月			27 水		27 土		27 月	(予備日)	27 木		27 日	第3回審判講習会	27 火	軟式東北大会③	27 金		27 日	
28 火			28 木		28 日		28 火		28 金		28 月		28 水		28 土		28 月	
29 水			29 金		29 月		29 水		29 土	秋季県大会(予選)	29 火		29 木		29 日		29 火	
30 木			30 土	東北地区審判講習会(石巻市民球場)	30 火		30 木	軟式東北大会(岩手)	30 日	秋季県大会(予選)	30 水	秋季東北大会抽選会(リモート)	30 金		30 月		30 水	
			31 日	東北地区審判講習会(石巻市民球場)			31 金	規則委員会	31 月				31 土				31 水	
備考	監査(2月) 第1回審判講習会(3/8)		各地区審判実践研修会												技術講習会(地区ごと開催)		肩肘検診 栄養講座 中高連携協議会開催	

**東北地区高等学校野球連盟
開催行事主管県予定表**

開催 年度	東北 事務 局	軟式 部	役員会	理事 長会	監 査	硬式 東北大会		軟式 東北大会			審 講 習 技 術 会 術	派遣 審判員		
						春季	秋季	春季	北東北・南東北 2020年度より 西東北・東東北	秋季				
						選抜	選手権							
2017		岩手	山形	秋田	岩手	宮城	宮城	福島	岩手	青森・福島	山形	山形	秋田	青森・山形
2018		岩手	山形	山形	岩手	宮城	青森	秋田	秋田	岩手・山形	青森	福島	福島	北海道
2019		宮城	秋田	宮城	宮城	福島	山形	岩手	福島	秋田・宮城	福島	宮城	北海道	宮城
2020		宮城	秋田	青森	宮城	福島	中止	宮城	中止	中止	岩手	中止	中止	中止
2021		福島	青森	岩手	福島	山形	中止	青森	山形	青森・宮城	宮城	秋田	岩手	秋田
2022		福島	青森	福島	福島	山形	福島	山形	福島	山形・岩手	秋田	岩手	青森・山形	福島
2023		山形	岩手	秋田	山形	秋田	岩手	秋田	岩手	秋田・宮城 福島 岩手	福島	青森	北海道	北海道
2024		山形	岩手	山形	山形	秋田	宮城	福島	宮城	青森・岩手	山形	福島	宮城	岩手
2025		秋田	宮城	宮城	秋田	青森	山形	岩手	山形	山形・宮城	青森	山形	秋田	青森・山形
2026		秋田	宮城	青森	秋田	青森	青森	宮城	青森	秋田・岩手	秋田	宮城	福島	北海道
2027		青森	福島	岩手	青森	岩手	秋田	青森	秋田	青森・宮城	宮城	秋田	北海道	宮城
2028		青森	福島	福島	青森	岩手	福島	山形	福島	山形・岩手	秋田	岩手		秋田
2029		岩手	山形	秋田	岩手	宮城	岩手	秋田	岩手	秋田・宮城	山形	青森		福島
2030		岩手	山形	山形	岩手	宮城	宮城	福島	宮城	青森・岩手	青森	福島		北海道
2031		宮城	秋田	宮城	宮城	福島	青森	岩手	青森	山形・宮城	福島	山形		
2032		宮城	秋田	青森	宮城	福島	山形	宮城	山形	秋田・岩手	岩手	宮城		

※ 2026 青森国体に合わせ 硬式春軟式秋は2027より正規ローテーション
※ 軟式東北大会において、加盟校がゼロとなった県が開催県となった場合、ローテーションから外す。

- ①会長・理事長（2年間）
宮城→福島→山形→秋田→青森→岩手
- ②軟式部
青森→岩手→宮城→福島→山形→秋田
- ③役員会
宮城→青森→岩手→福島→秋田→山形
- ④監査
山形→秋田→青森→岩手→宮城→福島
- ⑤硬式東北大会（春季・秋季）
宮城→青森→山形→秋田→福島→岩手
- ⑥理事長会
東北理事長会の開催地は東北地区理事長に一任することとする。
- ⑦軟式選手権大会二次予選
青森→山形→秋田・宮城→福島→岩手
- ⑧軟式東北大会（春季）
岩手→宮城→秋田→山形→青森→福島
※2022年以降春硬式と同じ県とする。
- ⑨軟式東北大会（秋季）※2021年から
福島→岩手→宮城→秋田→山形→青森
- ⑩審判技術講習会※2022年から
青森→福島→山形→宮城→秋田→岩手
- ⑪全国大会（選手権・選抜）審判派遣
青森→岩手→秋田→山形→宮城→福島
〔派遣県は日本高野連で発表〕

※11月実施の理事長会は、H24年度から神宮大会時に東京で開催（県名は幹事県）

宮城県高等学校野球連盟 ボランティア活動規定

第1条（目的）

本規定は、宮城県高等学校野球連盟（以下「本連盟」という）が主催または関係する行事・大会運営において、ボランティアとして参加する者（以下「ボランティア」という）の活動内容、待遇、義務等について定め、円滑かつ安全な活動を推進することを目的とする。

第2条（活動内容）

ボランティアの活動内容は、以下のいずれかとする。

1. 会場設営・撤収補助
2. 入場者案内・受付業務
3. 会場内整理・誘導
4. 備品の管理・運搬補助
5. その他、本連盟が必要と認めた活動

第3条（活動期間・場所）

活動の期間および場所は、本連盟が指定する大会・行事に準ずるものとする。また、ボランティアの活動場所等の調整はその都度、各地区理事を通して調整するものとする。

第4条（応募資格・募集）

1. 高校生以上の健康な方で、活動内容に支障のない者。
2. 原則として、複数年にわたって継続的に活動できる者。
3. 本連盟ホームページから募集し、新規で希望する場合は1月1日から3月31日までの期間に応募すること。

第5条（待遇）

1. 報酬は無償とする。
2. 交通費として、宮城県高野連の旅費規定に従い、当連盟が定める額を支給する（実費精算）。
3. 1年間の活動終了後、希望者には「ボランティア活動証明書」を発行する。

第6条（遵守事項）

ボランティアは以下を遵守しなければならない。

1. 本連盟の指示に従い、誠実に活動すること。
2. 大会の運営や参加者の妨げとなる行為を行わないこと。
3. 活動中に知り得た個人情報等を第三者に漏らさないこと。

第7条（保険）

ボランティア活動中の事故等に備え、必要に応じて傷害保険への加入を行うものとする。保険料は本連盟が負担する。

第8条（免責）

活動中の不注意による自己責任の事故等については、本人の責任とし、本連盟は責任を負わないものとする。ただし、本連盟の過失によるものを除く。

第9条（規定の制定と改定）

本規定は、令和7年12月26日に制定する。必要に応じて本連盟の判断により改定することができる。

第2回評議員会 財務部資料

令和7年12月26日

○各種会計中間決算

※別紙資料（当日配布）参照

○今年度の大会を通して 運営面での様々なご協力、ありがとうございました

（春）

- ・入場者数、パンフレット売上大幅減 参加チーム数減(28→25)、5/17(土)の雨天順延が影響か

（夏）

- ・一般チケット売り上げが大幅減、シニアとパンフレットは微減
 準決勝の入場者数が例年よりも少なかったのが大打撃、チームや選手数の減少の影響もあり
- ・支出で関節機能検査の費用が大幅増になったのは、抽選会日の分も含めたため
 来年度は抽選会日の分も予算に組み込みませていただきます

（秋）

- ・県大会の形式が変わって本戦出場チーム数が増えたことにより、全体としては収入増
- ・一方で休日に注目カードが入らないと、入場者数が芳しくない現状

（全体を通して）

- ・100円玉釣銭不足問題（秋から50枚増やしてみました。来年以降もこれでいきます。）
 それでも仙台・楽天では油断するとあっという間に無くなってしまうので、今後も要注意！
- ・仙台市民球場の本部室について
 整備や駐車場対応で出払ってしまうと、ほとんど人がいなくなる現状。防犯上危険です……
(過去に石巻市民球場の会議室で空き巣被害がありました)

○審議事項

- ・規定の改定について

会計年度と旅費規程について、現在の運用に合わせた内容に改定

- ・無料PASSの扱いについて（不正利用者対策）

春・秋の招待券を復活させる（その日のスタンプを押して、当日限り有効にする）

中学生・高校生はもぎりで学生証提示対応、持っていない人は券売所で学校を確認して招待券配布
報道用PASSは当日返却の徹底！（本部対応およびPASSのナンバリング化も必要か？）

運営の際には券売対応2名の他にもう1名必要になってしまいますが……

○その他

- ・来年からシニア料金値上げ（300円→500円）

宮城県高等学校野球連盟 会計規程

制定 令和4年12月26日
改正 令和7年12月26日

第1章 総 則

(目的)

第1条 この規程は、本連盟すべての取引を正確、完全かつ明瞭に経理し、その財政状態を明らかにするとともに、持続可能で効率的な運営に役立たせることを目的とする。

(適用範囲)

第2条 本連盟は各高等学校野球部の負担金、寄付金、その他の収入をもって運営する。

2 本連盟の会計に関する事項は、法令および寄附行為に定めがある場合のほか、この規程の定めるところによるものとする。

3 この規程に定めのないものについては、公正なる会計慣行に準拠するものとする。

(会計年度)

第3条 本連盟の会計年度は、毎年2月1日から翌年1月末日までとする。

→会計年度の切り替え変更に伴い、改正

(経理責任者等)

第4条 本連盟の会計責任者は、会計理事（財務部委員長）とする。

(帳簿・書類の保存期間)

第5条 帳簿・書類の保存期間は次のとおりとする。

- (1) 業務報告書（事業報告書、貸借対照表、正味財産増減計算書） 5年
- (2) 総勘定元帳 5年
- (3) 入力証拠票（振替伝票） 3年
- (4) 領収証、請求書等証憑書類 3年
- (5) その他の管理資料 3年

2 保存期間を経過した帳簿・書類を破棄するときは、理事長の承認を得てこれを行う。

(規程の改廃)

第6条 この規程の改廃は、評議員会の議決によって行う。

第2章 帳票および勘定組織

(会計伝票)

第7条 すべての取引は、会計システムにより記録する。

- 2 会計取引は領収証・請求書等の証憑に基づいて作成し、証憑は会計伝票との関連性を明確にして整理保存しなければならない。
- 3 会計伝票には、勘定科目、取引年月日、数量、金額、相手先および取引内容を記載し、会長・理事長の決裁を得なければならない。
- 4 会計入力証拠票は正確、整然と記録・記帳し、みだりに抹消・訂正してはならない。やむを得ず訂正する場合には、訂正部分を二本線で抹消し、起票者の印を押印して、正当な数字または文字を記載しなければならない。

(会計帳票)

第8条 会計帳票は次のとおりとする。

(1) 主要帳票

- ①総勘定元帳（会計伝票を勘定科目別に分類整理し、勘定月計票を作成することによって、これに代える。）
- ②仕訳帳（日々の取引を明確にするため、仕訳票を日付順に綴ることによってこれに代える。）

(2) 補助帳票

補助帳票として、現金出納帳、預金出納帳を備える。

第3章 現金・預金等

(金銭の種類)

第9条 この規程において金銭とは、現金および預金をいう。

(出納責任者)

第10条 現金の出納は出納担当者が行い、会計理事（財務部委員長）がこれを統括する。

(出 納)

第11条 金銭の出納は、会長の決裁印のある入出金伝票および証憑書類によって行う。

(支払期日および支払方法)

第12条 金銭の支払いは、旅費、立替払い、支払期限のあるもの等を除き、できる限り速やかに支払うこととし、現金および銀行振込並びに郵便振替によるものとする。

(現金過不足)

第13条 現金に過不足が生じた時は、出納担当者は遅滞なくその原因を明らかにし、その処理について会計理事（財務部委員長）の指示を受けなければならない。

(残高の照合)

第14条 現金出納担当者は大会期間中、毎日現金出納業務終了後、現金日計票を作成して現金残高と照合し、後日、会計理事（財務部委員長）の点検を受ける。

2 会計理事（財務部委員長）は銀行預金について、毎月1回以上預金通帳、預金証書と照合する。ただし、差異が生じた場合には、差異原因を明確にした調整表を作成するものとする。

3 銀行預金の残高は、期末決算においては、当該取引金融機関等の発行する残高証明書と照合しなければならない。

(銀行印の管理)

第15条 銀行印の管理者は会計理事（財務部委員長）とする。

第4章 固定資産

(固定資産の範囲)

第16条 固定資産とは、耐用年数1年以上で、かつ取得価格10万円以上の次に掲げるものをいう。

(1) 基本財産

基本財産としての有形固定資産で土地、建物、構築物等および基本財産として定めた定期預金、貸付信託、金銭信託等

(2) その他の固定資産

- ①基本財産以外の有形固定資産
- ②基本財産以外の無形固定資産
- ③基本財産以外の投資有価証券、定期預金、貸付信託および金銭信託等の投資等の資産

第5章 予 算

(予算の編成実行)

第17条 每事業年度のはじめに事業計画に基づいて収支予算を編成するものとする。予算の編成は、事業計画を明確な係数的目標をもって表示し、以って事業の円滑な運営を図ることを目的とする。

第6章 決 算

(決算区分)

第18条 決算は中間決算および期末決算とする。

(決算書類の作成)

第19条 中間決算および期末決算において作成する書類は、次のとおりとする。

(1) 中間決算

- ①貸借対照表
- ②正味財産増減計算書

(2) 期末決算

- ①事業報告書
- ②貸借対照表（内訳表を含む）
- ③正味財産増減計算書（内訳表を含む）
- ④収支計算書
- ⑤その他必要な書類

第20条 貸借対照表および正味財産増減計算書は、公益法人会計基準に準拠して作成する。

第21条 収支計算書は、以下に掲げる事項に留意して作成するものとする。

- (1) 収支計算書は、当該事業年度における全ての収入及び支出の内容を明瞭に表示するものでなければならない。
- (2) 収支計算書の科目は、その性質を示す適當な名称で表示するものとする。
- (3) 収支計算書は、収支の予算額と決算額とを対比して表示しなければならない。
- (4) 収支計算書は、事業活動収支の部、投資活動収支の部及び財務活動収支の部に区分するものとする。

第22条 収支計算書に対する注記に記載する「資金の範囲」は、現金預金、未収金、未収収益、前払金、未払金、前受金、預り金を含める。

宮城県高等学校野球連盟慶弔規定

第1条 この規定は、本連盟加盟校の部員および役員等（顧問、役員、部長、監督、および附属審判団）の慶弔に関することを定める。

第2条 加盟校の部員および役員等が死亡した場合は次の弔慰金を贈る。

- (1) 加盟校の部員が本連盟主催（日本高野連主催、東北地区高野連主催を含む）の大会において死亡した場合は弔慰金として10,000円を贈る。
- (2) 本連盟の役員等が死亡した場合は弔慰金として20,000円を贈る。
- (3) 本連盟の役員等の配偶者が死亡した場合は弔慰金として10,000円を贈る。
- (4) 加盟校の部員および役員等（顧問、役員、部長、監督、コーチ及び附属審判団）の死亡に関しては弔電を打つ。
- (5) その他については常任理事会で決める。

第3条 加盟校の部員および役員等が入院した場合は次の見舞金を贈る。

- (1) 加盟校の部員が本連盟主催の大会において負傷し、1ヵ月以上の入院をした場合は見舞金として5,000円を贈る。
- (2) 本連盟の役員等が病気又は負傷により、1ヵ月以上の入院をした場合は見舞金として5,000円を贈る。

第4条 本連盟の顧問、会長、副会長、理事長、副理事長、会計理事、庶務理事、軟式野球部常任委員長、審判団長がその任を終え、職を辞した場合は記念品を添え感謝状を贈る。

第5条 永年勤続（満10年、20年、30年）で本連盟の発展に貢献し、多大の功績があった役員等についてはその都度記念品を添え表彰状を贈る。

第6条 各加盟校の第3学年生部員1名以内に優秀選手賞もしくは功労賞を贈る。

第7条 加盟校が、選手権大会に出場するときは祝い金（餞別）として30,000円を贈る。
また、東北地区大会（軟式野球選手権二次予選は除く）に出場するときは祝い金として10,000円を贈る。

第8条 その他、特に必要と認める場合は常任理事会で審議し決定する。

第9条 本規定は、平成7年4月13日に改定し、施行する。

令和2年4月13日 一部改正 令和3年4月12日 一部改正

旅費に関する規程

(根拠条文)

第1条 本連盟の事業等を円滑に運営するために、旅費に関する規程を定める。

(旅費の区分)

第2条 本連盟が支給する旅費は、日当、交通費、宿泊費、会議費、研修費、視察費および駐車料金とする。

(支給の対象)

第3条 旅費は、役員、運営委員および審判委員が本連盟の事業、または日本高等学校野球連盟等の上部団体が主催する会議、研修等に出席するため旅行した場合に支給する。

(旅費支給額) **→現在の運用と異なるため、波線部分を改正する**

第4条 旅費の支給額は、次のとおりとする。

- (1) 日当は、県内は一律600円とし、県外は一律2,600円とする。なお、前条に規定する事業等が半日（4時間未満）の場合は、半日当（300円）とする。
- (2) 交通費は、県内は<起点間距離×2×20円>に基づき支給する（別表）。 100円未満は切り捨てとする。なお、片道8km未満は一律200円とする。 起点間距離は、「自宅あるいは宿泊先と会場」、「勤務先と会場」のいずれかの距離の短い側で算出する。また、県外は特別な場合を除き鉄道運賃（特急料金）とし、市内交通費（日額2,000円）を別に支給する。
- (3) 宿泊費は、10,000円を上限として実費とする。
- (4) 会議費は、5,000円を上限として実費とする。

※改定案

- (1) **日当は県外のみ、一律2,600円とする。**
- (2) 交通費は、県内は<起点間距離×2×30円>に基づき支給する（別表）。 100円未満は切り捨てとする。なお、**片道20km未満は一律500円とする。** 起点間距離は、「自宅あるいは宿泊先と会場」、「勤務先と会場」のいずれかの距離の短い側で算出する。また、県外は特別な場合を除き鉄道運賃（特急料金）とし、市内交通費（日額2,000円）を別に支給する。
- (3) 宿泊費は、**12,000円を上限として実費とする。** **ただし繁忙期等はその限りではない。**
- (4) 会議費は、**10,000円を上限として実費とする。**

- (5) 研修費は、必要と認められた場合10,000円とする。
- (6) 視察費は、必要と認められた場合10,000円とする。
- (7) 駐車料金は、実費とする。
- (8) 外国への旅費は別に定める。

(支給の特例)

第5条 特別な事由による旅行または滞在期間が長期に及ぶなどの特殊な旅行の場合で、前条に規定する支給額が実情に即さないと認められるときは、会長または理事長が理事会の承認を得て支給額を調整することができる。

2 外部からの要請により旅行し、旅費に相当する費用の支給があったときは、旅費の全部または一部を支給しない。

(旅費の請求)

第6条 旅費の請求は、旅行者が旅費請求書に必要事項を記載し、事務局（会計担当）に提出して行うものとする。

(補則)

第7条 この規程に定めるもののほか、旅費に関し必要な事項は、会長または理事長が理事会に諮って定める。

附則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

令和7年12月26日 一部改正

ピックアップチームの活動について（報告）

2025.12.26 宮城県高野連 強化育成部

- 1 名 称 宮城県高野連ピックアップチーム
石川県高野連奥能登地区ピックアップチーム
福島県高野連ピックアップチーム
- 2 チーム編成 宮城県高野連ピックアップチーム
- 3 対象チーム 宮城県高等学校野球連盟加盟校（3年生）
石川県高野連奥能登地区加盟校（3年生）
福島県高等学校野球連盟加盟校（3年生）
- 4 主催（共催、後援など）
宮城県高等学校野球連盟 石川県高等学校野球連盟 福島県高等学校野球連盟
- 5 実施報告（ピックアップチームの編成から交流試合までを記入）

14年前の東日本大震災より石川県高野連から被災3県（宮城、岩手、福島）への支援や交流を実施していただいていることから、東北・北信越地区の理事長らで話し合いを設け、石川県チームを結成して、新たな形で交流を深めたいと考えてきました。そこで昨年度は石川県奥能登選抜をお迎えして交流戦が実施し、今年度は本連盟が石川県を訪問する形で実施することができました。

ピックアップチームの編成は、公式戦を見ながら第一次選考で53名を選び、第二次選考でセレクションを実施し21名を選出した。その後合同練習会を5回実施（津波警報発令のため1回中止）しながら強化を図った。夏の選手権大会において戦った選手たちが集まり、新しい友情を芽生えさせ、切磋琢磨し信頼し合いながら更なる高いレベルの野球技術の向上を図ることができました。泉松陵高校での合同練習では、高校1、2年生の新チームの選手達にとっては、ピックアップ選手との交流を通して、今後の成長の指針が得られる機会となりました。また、仙台大学、東北大学、との練習試合を実施し、試合経験を積みながらレベルアップを図るとともに、ピックアップチームOBとの交流も含めて、進路意識を高揚させることができました。（東北学院大学との練習試合は津波警報発令のため中止。）

今年度も仙台六大学野球連盟との交流試合を予定していましたが、先方の都合により中止となりました。急遽交流相手を探し、福島県高野連選抜との交流試合が実現しました。各県選手権大会を戦い抜いた三年生同士の戦いが観られ、最後まで野球に取り組む真摯な姿勢が印象的でした。対戦結果は1勝1敗でしたが、両試合とも1点差のシーソーゲームで、手に汗握る試合展開でした。また、石巻高校の1、2年生選手が試合運営に携わり、自チームの先輩がピックアップ選手として活躍する姿を目の当たりにし、今後の自分達の飛躍に繋がる機会を得てきました。約300名の観客からは各チームに温かい拍手をいただくことができました。試合後は観客の方々から「他県のピックアップチーム対戦が観られて良かった」や「来年も実施してほしい」という話をいただきました。

また、今回ピックアップチームとして初めて他県に遠征という形で実施ができました。約10時間のバス移動、2泊3日という宿泊を通して、本県の選手たちがより深い絆で結ばれたように感じます。バスの道中では、夏の大会やこれまでの試合の振り返りなどをしながら、野球談議に花を咲かせ、時には真剣に進路の話や勉強の話をしているなど、これまで関わることがなかった仲間との有意義な時間を過ごせたように感じます。宿泊地では、慣れない中でも互いに協力し、常に5分前行動をしたり、「素振りをさせてください」と直訴する選手がいたりと意識の高さを感じました。約10日間の活動を通して様々な経験をすることで人間的にもより大きく成長できたのではないかと感じています。

この度の訪問では、能登半島地震からの復興の現状を知る機会を設けて頂きました。特に道路状況が未だに悪い場所を実際に目にすることで、復興事業の困難さを痛感いたしました。1日目の試合後に、震災の爪痕が色濃く残る見附島や外浦地域を見学し、現地で目の当たりにした被害の大きさは、報道を通じて知る情

報とは比べ物にならないほど生々しく、改めて震災の破壊力を肌で感じる機会になりました。道中では、石川県高野連の方から、震災発生時の状況や、未来に向けた復興への強い思いについて直接お話を伺うことができ、私たちの理解を深める上で非常に貴重な機会となりました。同じ被災者である私たちにとって、高野連の方のお話には多くの共通点があり、同時に地域によって被害の状況が異なることなど、多岐にわたる学びを得ることもできました。

以上のように、宮城県高野連の強化育成のみならず、野球普及振興や被災地支援・復興など多岐に渡る好影響をもたらす事業を実施できた事に関しては、日本高野連をはじめ、多くの関係者のお力添えによるものと考えており、心より感謝申し上げます。この事業の意義がより大きく展望がありますので、今後も皆様とお話しさせて頂きながら、より良い形を模索していく所存です。

6 実施結果及び開催地

開催日：令和7年8月1日（金）

会 場：石巻市民球場

試 合：（2試合） 宮城県高野連 4対3 福島県高野連
宮城県高野連 7対8 福島県高野連

開催日：8月3日（日）

会 場：珠洲市野球場

試 合：（1試合） 宮城県高野連 9 対 3 石川県高野連奥能登

開催日：8月3日（日）

会 場：志雄運動公園球場

試 合：（1試合） 宮城県高野連 3 対 0 石川県高野連奥能登

7 予算

- ・球場使用料、交流試合の経費（宮城県高野連、石川県高野連負担）
- ・審判料（宮城県高野連、石川県高野連負担）
- ・指導者と選手の傷害保険（各連盟負担）
- ・遠征交通費（宮城県高野連）
- ・宿泊費（石川県高野連）

8 活動報告

＜強化練習会、練習試合＞

- | | | |
|------------------|--------|-------------|
| ①7月25日(金)13時～16時 | 合同練習 | 泉松陵高校 |
| ②7月26日(土)11時～17時 | 仙台大学 | 柴田球場 |
| ③7月27日(日)15時～18時 | 仙台大学 | 仙台大学 |
| ④7月29日(火)13時～16時 | 東北大学 | 宮城広瀬球場 |
| ⑤7月30日(水)15時 | 東北学院大学 | 学院大泉球場 (中止) |
| ⑥7月31日(木)10時～14時 | 合同練習 | 石巻市民球場 |

9 来年度に向けて

- 1) 来年度も今年度と同様に本事業を実施する方向で考えている。日程や内容については、選手権宮城大会の日程等を鑑み本年度と同等の交流試合を実施したい。
- 2) 隣県にピックアップチームが結成されているので、交流の方法を検討していきたい。

令和7年度 第22回 宮城県高等学校野球連盟 リーダー研修会兼アナウンス講習会報告書

1 主 催 宮城県高等学校野球連盟

2 日 時 令和7年12月6日（土）9：00～15：30

3 会 場 仙台市立仙台工業高校

4 目 的 1) リーダーとしての高い倫理観や責任感さらに構想力を育む。
2) 高校球児が、チームの安全はチームで守る『自助』の力と、地域は皆で守る『共助』の精神を育む。
3) マネジャーとしての心構えを学ぶとともに、アナウンス技能の向上を図る。

5 対 象 者 宮城県高等学校野球連盟加盟校 硬式・軟式野球部主将 各1名

6 講 師 七十七銀行硬式野球部 千葉 蓮 氏
仙台育英学園高等学校 硬式野球部前主将 佐々木義恭 君
→都合により、同校3年 原 亜佑久君へ変更となりました。
仙台市立仙台商業高等学校 軟式野球部前主将 引地 遼汰 君

7 役員・担当

会 場 仙台工業高等学校	◎高等学校野球連盟会長 春日川 孝（仙台工）
	◎高等学校野球連盟理事長 松本 嘉次（仙台工）
	◎高等学校野球連盟副理事長 鈴木 康（仙台）
	◎高等学校野球連盟副理事長 後藤 大（迫桜）
	◎高等学校野球連盟事務局長 佐藤 貴志（仙台工）
	◎高等学校野球連盟事務局次長 石垣 美映（松島）
	◎高等学校野球連盟常任理事・財務部委員長 岩村 圭祐（仙台一）
	◎高等学校野球連盟常任理事・強化育成部委員長 平塚 誠（角田）
	◎高等学校野球連盟強化育成部 青山 隼人（仙台一）
	◎高等学校野球連盟分科会指導担当者 遠藤 和（村田） 千坂 優斗（宮城農） 朝倉 優大（東北学院） 高橋 大翔（塩釜） 神戸 陽知（小牛田農林） 菅原 拓朗（黒川） 大内 拓己（築館） 酒井 渉（気仙沼）

8 日 程

当日の動き			
リーダー研修会		アナウンス講習会	
9:00～ 9:30	受付 (4 F 大講義室) (会場担当: 佐藤貴志先生)		
9:30～ 9:45	開会行事 (総括司会: 酒井) ① 会長挨拶 ②理事長より講師紹介 ③諸連絡		
9:45～10:05	体験発表 1 仙台育英学園高等学校 硬式野球部 3年 原 亜佑久 君		
10:10～10:30	体験発表 2 仙台市立仙台商業高等学校 軟式野球部前主将 引地 遼汰 君		
10:30～10:45	休憩	10:30～10:45	光耀会館～移動
10:50～11:40	講演 七十七銀行硬式野球部 千葉 蓮 選手 「チームリーダーとして必要なこと・ 求められること」	10:50～11:50	講演 宮城県野球協会 木村 有優 様 「マネージャーを通して学んだこと」
11:50～12:00	分科会会場に分かれ、各分科会役割分 担決め	11:50～13:00	昼食
12:00～13:00	昼食	13:00～14:00	アナウンス講習会
13:00～14:50	研修 (10分科会予定) ① 「絆プロジェクト」について ② 希望テーマについて ③ 意見交換	14:00～14:20	閉会行事
14:50～15:15	閉会行事 (総括司会: 酒井) ①各班より発表 (各代表生徒) ②講評と閉会の挨拶 (強化育成部長 平塚 誠先生)		

9 研修会報告

今年度も例年同様、4つのテーマから希望を取り分科会を編成した。内容についても絆プロジェクト、不祥事防止等について話し合い、様々な意見が飛び交っていた。後半1時間は各分科会をミックスし、意見交換を行った。キャプテン同士、横のつながりが生まれ、今後の活動の助けになると良いと感じた。また、今年度は七十七銀行硬式野球部の千葉選手からご講演いただいた。仙台育英→白鷗大でキャプテンを務められ、実績もある方からの講演で選手は多くを学んだようだ。午後の分科会をより濃いものにするために、来年度に向けて検討を続けていく。

分科会名	絆プロジェクトについて	来年のキャッチフレーズ候補	不祥事撲滅のために私たちができること	その他報告事項があれば
A-1	-小中学生を対象とした野球教室や合同練習を行い、野球に対して関心を持ってもらう。 -地域に対する奉仕、清掃活動を行う。	感謝を胸に、信じる仲間と全力プレー	-小さなミス（遅刻など）を許さない。 -不真面目な部員を見る、寄り添う。 -後先考えて行動する。 -部活としてルールを作る。	特になし
A-2	野球教室の継続と規模の拡大 →野球人口が減ってきてるなかで、数チームだけ招待して開催だと人数が少なく盛り上がりに欠ける。 野球人口の減少を止めたい →小中学生の「野球ができる場所が無い」を改善するため、高校のグラウンドを貸す日を作るなど 震災、コロナ禍を風化させない活動 →例、仙台育英では石川県との交流を継続したい。 →例、石巻工業、震災後10年以上経つが、震災を知らない世代への伝承活動など 地域住民や保護者、支えてくれる方への恩返し →地域の人向けたイベントを大々的に開くなど	「魅せろ球児の絆」～全ての人に感動を～	小さなミスをそのままにしない。 チームで孤立した存在を作らない。	2年半とゆう短い時間で一生の思い出を作るためには、もっと選手同士が関わる場があったほうがいいのではという意見も出た。
A-3	野球教室、植樹、ゴミ拾い など行う回数を増やす。	白球で宮城を熱く～一瞬に賭ける全力の物語～	名前を背負ってる自覚を持って行動する 仲間同士で抑制する	宮城の野球を盛り上げていきましょう！
A-4	昨年度の活動で良かった点は野球の楽しさを教えながら教えられた。反省点はリーダー講習会で話した絆プロジェクトの課題をチーム全体に伝えていなかった。これからは今日の話をミーティングなどでチーム全体に話す。地域の活動にチームで参加する。野球教室、駅でのあいさつ運動などの案がでた。	青春、目指せ全国、未来へ、絆、夢を追い求める	ルールをあいまいにするのではなく、正確な基準のルールをつくる。個人の情報が外に出ないようなSNSの利用。先生に言ってもらう。など	
B-1	○やってきたこと ・地域清掃、小中学生との交流 ○これから行うこと ・やってきたことの継続、野球教室、あいさつ運動	仲間を信じてその先へ～全力プレーで恩返し～	・野球部全体で仲良くなる ・後輩との関わり方のバランスを気をつける（厳しさについてなど） ・SNSを正しく使う	
B-2	昨年度地域清掃や雪かきなどをやり地域のためにできた小中学生と一緒にやり楽しさなどを教える	全国の頂点を宮城から～	SNSをあげる前に考える チーム全体で一人一人がチームのことを考える	仲間を大切にする
C-1	今までの活動としては中学生を対象とした育成事業や、自分たちの地域のごみ拾いを行っていた。今後も引き続きこれらの活動に力を入れて行っていきたい。	行くぞ頂点～立ち向かえ駆け上がり～	一人一人の先を見据えた行動、言動 飲酒、喫煙の注意喚起	
C-2	地域の除草、マラソン大会の運営	地域に貢献 感謝を持って全力プレー	野球に想いをぶつける 仲間を気にかける	なし
D-1	小中育成事業を通して野球の楽しさを伝えられた。	感謝を力にドラマを起こせ～かけがえのない今を大切に～	キャプテンとしてチームの中立を保つ	

10 アナウンス講習会感想

○感想（事後アンケートより抽出）

- ・ニュース原稿を読む際、ただ文字を追うのではなく、そのニュースが「いつ」「どこで」「だれに」向けたものなのかを明確に意識するだけで、読みの説得力が劇的に変わることを学んだ。
- ・今まで腹式呼吸を意識したことがなかったが、実際にお腹に手を当てて声を出す練習を繰り返すことで、喉に負担をかけずに遠くまで通る声が出るようになる感覚を掴むことができた。
- ・大会や本番での緊張をコントロールするために、深い呼吸や肩の力を抜くストレッチなどの具体的なリラックス法を教わり、メンタル面での備えができたことは大きな収穫だった。
- ・句読点だけでなく、意味のまとまりごとに適切な「間」を置くことで、聞き手が内容を理解する時間を確保でき、より「伝わる」アナウンスになるという教えが非常に勉強になった。
- ・マイクとの距離や角度、原稿をめくる音を立てない工夫など、放送機器を扱う上での細かなマナーや技術を知ることで、本番の放送でも落ち着いて対処できる自信がついた。
- ・他校の生徒の読みを聴く機会があり、自分と同じ学年でも圧倒的な表現力を持つ人がいることに驚くとともに、自分も負けていられないという強いモチベーションに繋がった。
- ・アクセント辞典を引く重要性を教わり、自分が普段正しいと思い込んで使っていた標準語のアクセントが、実は地方独特の癖や間違いであったことに気づくことができた。
- ・講師の方から自分の読みの癖として「語尾が下がりすぎる」という指摘をいただき、最後まで言葉を丁寧に置くことを意識するだけで、文章全体が明るい印象に変わることを発見した。
- ・鼻濁音やが行の鼻に抜ける音、無声化といった日本語の基礎的な発音ルールについて、自分の読みがいかに自己流で曖昧なものだったかを思い知らされ、基礎の徹底が必要だと感じた。
- 聞き手に「届ける」という意識を持つために、原稿ばかりを見るのではなく、時折顔を上げて正面を見据えながら発声することの重要性と、その難しさを同時に体感した。

○次回に向けて

・生徒より

「次回も開催してほしいです。」「スコアブックの書き方もやってほしい。」「実際にアナウンスしている姿を見て学びたい。」「学ぶことが多くあったのでぜひ1年生に受けてほしい。」

・担当より

現状、東北大会開催時に併せての実施となっているが、参加した生徒からは学びがあったとの声が多くあったため、様々な形で継続的な実施ができると良いと感じた。また、2年生よりも1年生の早いタイミングでこのような講習ができれば、県全体としてアナウンス力の向上を見込むことができる。試合時の実戦的な講習会も含め、様々検討の余地があると感じた。

プロ野球現役選手によるシンポジウム 「夢の向こうに」in 宮城 実施計画（案）

2025.12.26 宮城県高等学校野球連盟
「夢のむこうに」in 宮城 実行委員会

1 日 時 令和8年12月12（土）10：00～15：15（予定）

2 運 営

主 催 (一社)日本野球機構 (一社)日本プロ野球選手会
(公財)日本高等学校野球連盟
主 管 宮城県高等学校野球連盟

3 目 的 • プロ野球現役選手の野球への心構え、高度な技術を研修し、高校野球活性化とレベル向上を図る
• 高校生として、健全な心と身体を育成する

4 登壇者

※ 宮城県に縁のある選手に来ていただき、指導していただきたい。

• パネリスト（現役選手）14名程度
(投手) 6名、(捕手) 2名、(内野手) 4名、(外野手) 2名

<パネリスト候補>

(投手) 岸孝之 (E)、馬場臯輔 (G)、梅津晃大 (D)、今野龍太 (E)
本田圭佑 (B) 佐藤隼輔 (L)、山口廉王 (B)、大内誠弥 (E)
佐藤柳之輔 (C)

(捕 手) 郡司裕也 (F)

(内野手) 山田脩也 (T)、入江大樹 (E)、西巻賢二 (DB)
平沢大河 (L)、熊谷敬宥 (T)

(外野手) 上林誠知 (D)、杉澤龍 (B)、麦谷祐介 (B)

• コーディネーター (OB) 3名

(内野) 1名、(外野手) 1名、(打撃) 1名

<コーディネーター候補>

小坂誠、斎藤隆、葛西稔、井上純、金村暁、星孝典
嶋重宣、高井雄平、鈴木郁洋、佐藤由規、橋本到

• 特別講師（トレーニングコーチ）2名

東北楽天ゴールデンイーグルス

5 参加者

(実技) 宮城県高等学校野球連盟所属の硬式（65校）・軟式（12校）
野球部員1, 2年生、指導者
宮城県：約470名程度（各校6～7名）
投手2名、捕手1名、内野手2名、外野手1名、打撃のみ1名

6 会場 <宮城県 会場候補>

- ・楽天モバイルパーク宮城（球場、室内練習場）
- ・東北福祉大学野球場（球場、室内練習場）
- ・仙台市民球場（球場）
- ・仙台育英高校（球場、室内練習場）
- ・仙台高校（室内練習場）
- ・東北高校（室内練習場）
- ・森林どりスタジアム泉（球場、室内練習場）

7 練習メニュー

- <投手>投球指導、心構えや試合に向けての準備の仕方
 - <捕手>捕球、ブロッキング、送球、配球の考え方
 - <内野手>捕球、送球、
 - <外野手>捕球、送球
 - <打撃専門（DH）>打撃指導、心構えや打席に向けての準備の仕方
 - <捕手、内野手、外野手共通>
 - ・走塁練習（離塁の仕方、ベースランニング、打球に応じたランナーの動き等）
 - ・打撃練習（トス打撃、ペッパー、ティー打撃等）
 - ・トレーニング
- ※ プロ野球選手がシートノックや打撃練習で動いている姿を拝見したい。

令和7年度宮城県高等学校野球連盟

南部地区 野球技術講習会 報告書

- 1 目的 野球における、個人のパフォーマンスの向上を図るため、トレーニング理論の知識・技能を身につける。冬場のトレーニングの意識を高めること。講習で学んだことを自チームに還元し、チーム力の向上を図る。
- 2 開催日時 令和7年11月29日（日）9:00～11:30
- 3 場所 仙台大学（トレーニングセンター・講義室）
- 4 講師 仙台大学 白坂 牧人 殿、馬目 知人 殿、菅井 夏輝 殿
- 5 日程 8:30～8:50 受付
9:00～10:15 開会行事 トレーニング実践
10:25～11:30 トレーニング講義
11:30～11:40 質疑応答・閉会行事
- 6 受講者 宮城県高等学校野球連盟加盟の南部地区硬式野球部の部員及び監督、部長、副部長、コーチ
参加校7校 選手合計35名

7 当日の様子



8 総括

仙台大学からのご厚意で到着した選手からトレーニングセンターの見学をさせていただいた。充実した施設に選手も圧倒されていたのが印象的であった。前半はウェイトトレーニング実践。選手3～4名を1グループとし、仙台大学トレーナー3名の方々が各グループを巡回して、選手への声掛けやフォームチェックにあたってくれた。筋力トレーニング前のウォーミングアップの方法と考え方、スクワットの基本姿勢などもご教示いただき、選手たちも真剣な表情でトレーニングに励んでいた。トレーニング講義は白坂氏が担当。実体験も踏まえて、野球に必要な動作・トレーニングメニューの組み方・練習への取り組む姿勢など時間いっぱいまで講義を聞いていただいた。質疑応答では1名の選手が質問をした。

課題としては、参加校が7校であったこと。日程的にもテスト期間や修学旅行と被ってしまったところもあった中、インフルエンザ蔓延も影響した。他のイベントもある中、日程を変更することは難しいかもしれないが、日程の調整も検討する余地はありと考える。質疑も1名だけだったので、1チーム1名質問するよう事前に声掛けをしておいても良かった。

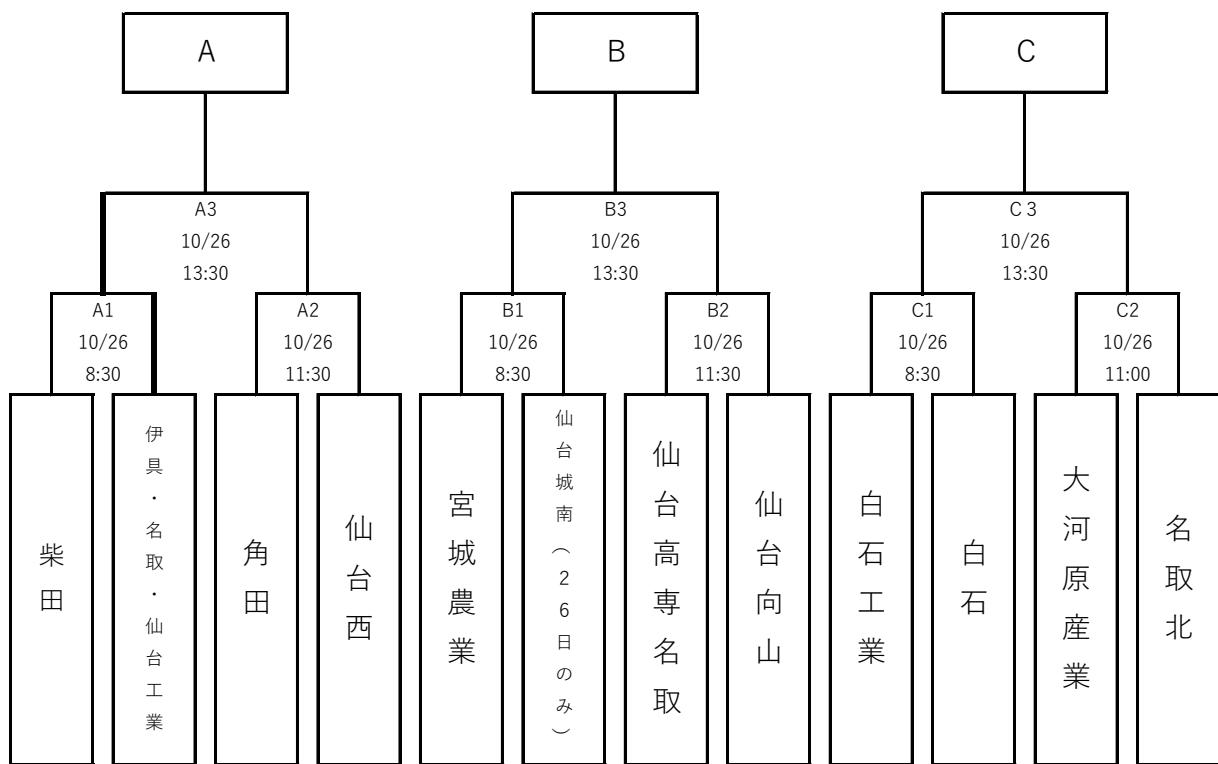
個人的には引き続き南部地区の技術講習会として仙台大学でのトレーニング講習は継続しても良いのではと感じた。今回の講習が南部地区各選手のレベルアップを図るきっかけになってもらえたなら幸いである。

報告者：大内 卓也（仙台高専名取）

令和7年度南部地区強化交流大会トーナメント表

【1日目トーナメント】 (雨天のため順延)

期間：10月26日・11月2日
場所：南部地区加盟校グラウンド他



会場 柴田高校

会場 宮城農業高校

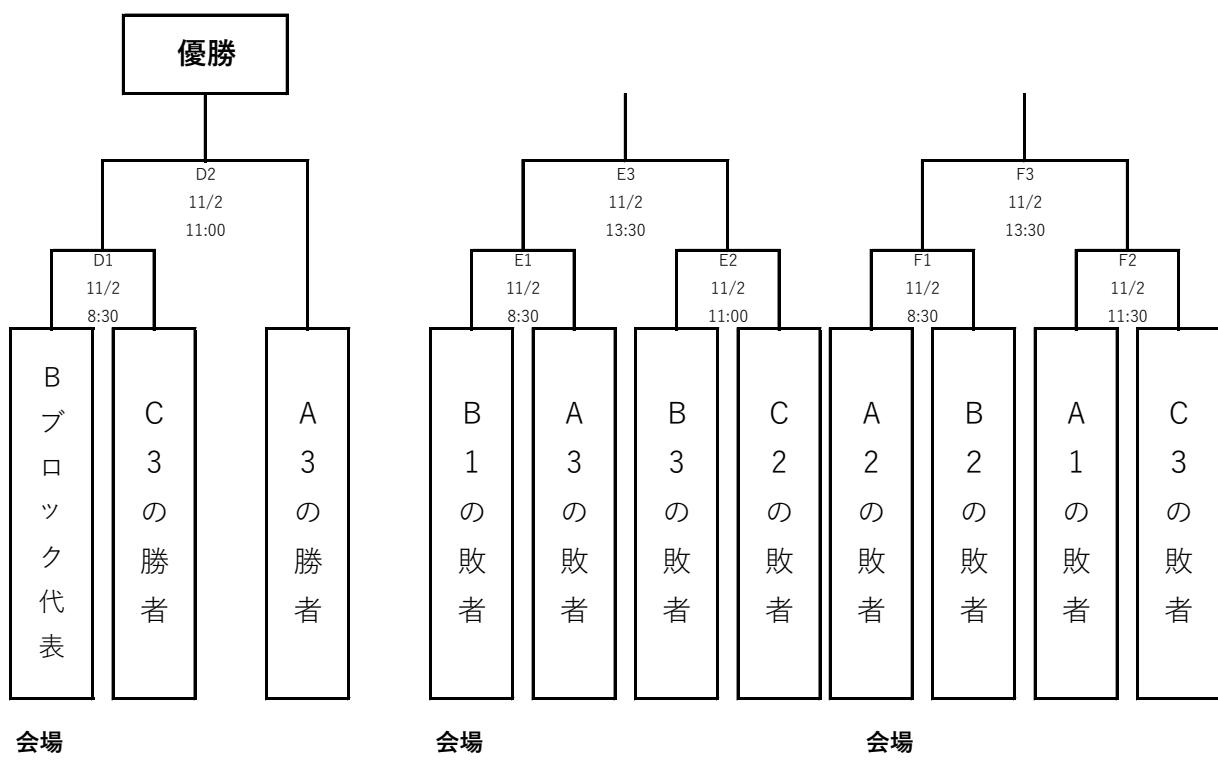
会場 名取北高校

【2日目トーナメント】

【優勝決定トーナメント】

【敗者トーナメントA】

【敗者トーナメントB】

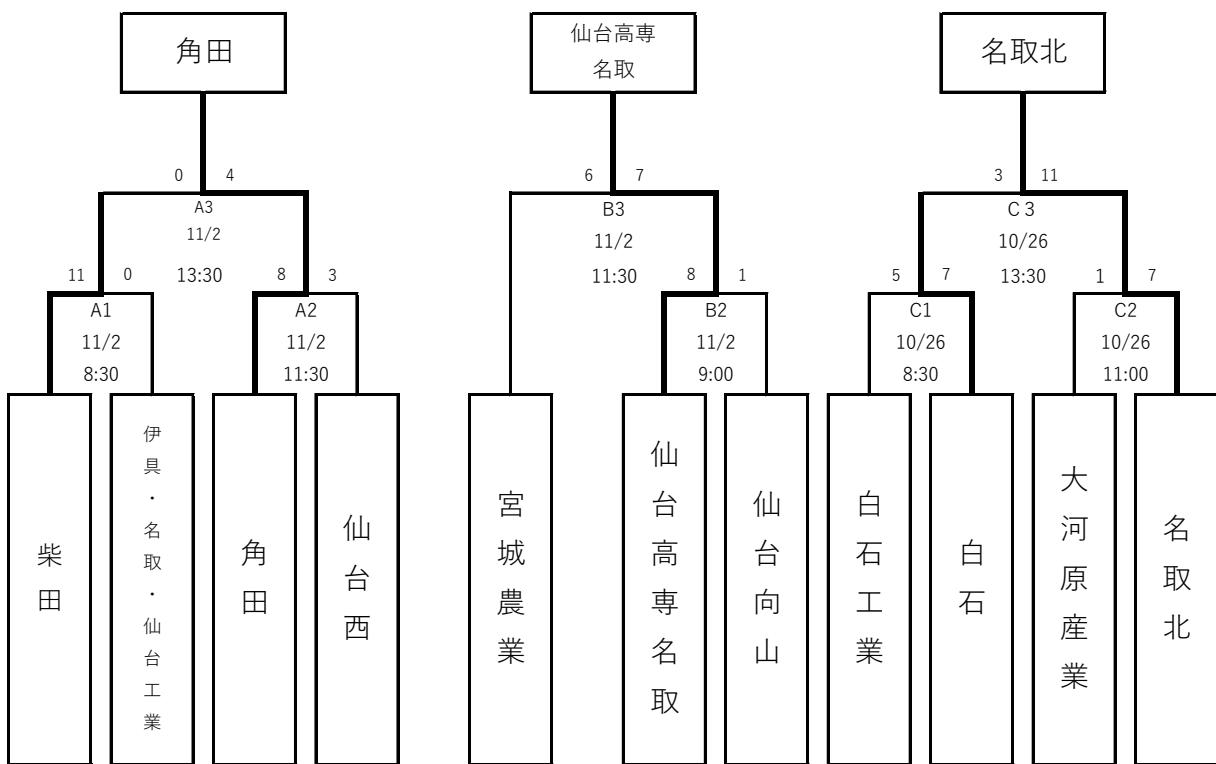


令和7年度南部地区強化交流大会トーナメント表

【11月2日 トーナメント】

期間：11月2日

場所：南部地区加盟校グラウンド他



会場 柴田高校

会場 宮城農業高校

会場 名取北高校

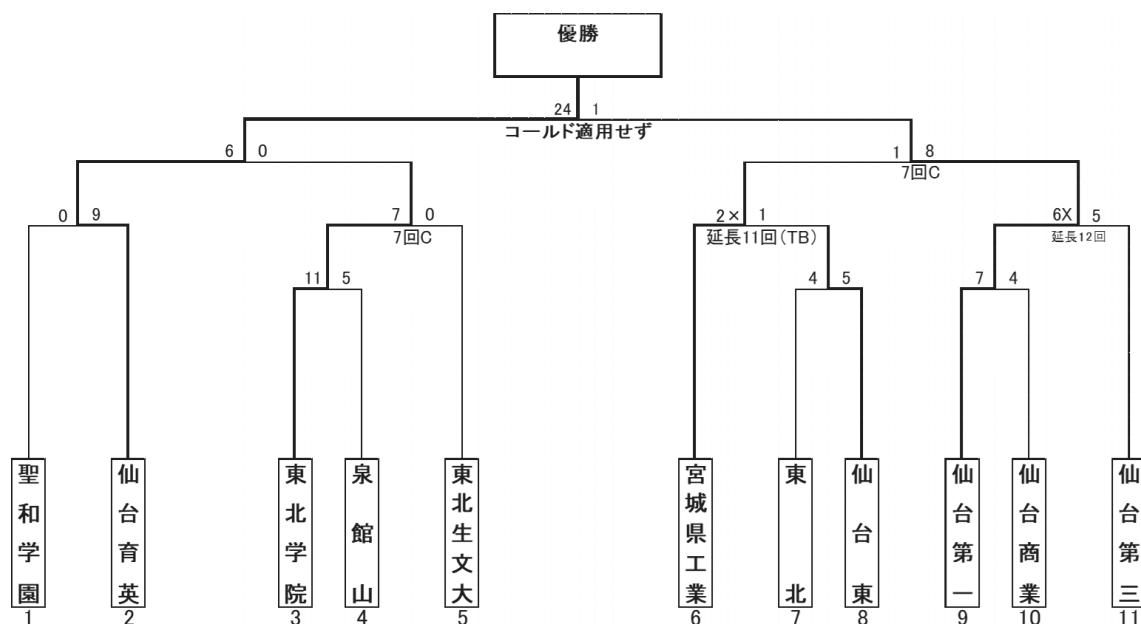
宮城県高校野球連盟中部地区強化育成部報告

① 1年生大会

期間 9月27日～11月23日間の土曜日・日曜日

参加校 以下の権参照

優勝 仙台育英高校 準優勝 仙台第一高校



② 技術講習会

依頼先 七十七銀行野球部

期間 1月31日(土)、2月1日(日)

参加対象 中部地区17校

形態 各高校に野手を派遣していただきの指導

バッテリーが七十七銀行硬式野球部野球場にての指導

来年に向けての課題

- ① 参加校の減少。来年以降形態含め現状に合った運営を模索していく。
- ② 日数をもっと多く設けたい旨の希望がある(全校が参加できるよう、またグランドが使える時に来てもらい等の理由から) ただ、七十七銀行野球部さんへは11月は北部地区がお願いしており、12月はそもそも高野連の行事が多く設定されており入れこむ日が難しく、1月は七十七銀行野球部さんの部員が銀行内での試験で忙しいという状況になっており、現状難しい。妙案が無いか探っていく1年にしたい。

令和7年度宮城県高等学校野球連盟東部北地区技術講習会 報告書

- 1 目的** 高度な技術や知識を持つ社会人野球チームの指導により、加盟校の野球部員の技術向上と高校野球指導者の指導力向上を図ることを目的とする。
- 2 開催日時** 令和7年11月8日（日） 9時00分～13時00分
- 3 場所** 宮城県気仙沼向洋高等学校野球場（宮城県気仙沼市長磯牧通78）
- 4 講師** トヨタ自動車東日本株式会社硬式野球部
- 5 日程**
- | | | | | |
|-------|---|-------|---------|---------------------|
| 8：15 | ～ | 9：00 | 受付 | （受付後、各自アップ） |
| 9：00 | ～ | 9：10 | 開会行事 | ①主催者挨拶 ②講師紹介 ③講師挨拶 |
| 9：15 | ～ | 9：30 | キャッチボール | |
| 9：30 | ～ | 12：30 | 実技指導 | （ポジション別守備指導および打撃指導） |
| 12：40 | ～ | 12：50 | 閉会行事 | |
- 6 受講者** 4校 高校生部員 25名 マネージャー 若干名 指導者 10名
気仙沼・本吉地区中学生 10名

7 当日の様子



今年度は10月13日に予定していた気仙沼・本吉地区の中高連携イベントが雨天中止となったため、中学生もお呼びして一緒に野球教室を開催した。今年度もトヨタ自動車東日本様からご指導をいただき、選手は各ポジションに別れて指導を受けた。野手はキャッチボールから各ポジションのゴロ捕球、ノックと基礎的な動きを練習していた。中学生、高校生、社会人と3つのステージの選手たちが集ったことで、多くの意見交換が行われていたようだ。投手はブルペンでのピッチングを各社会人選手に見ていただき、各自指導をいただいた。その後、全選手でバッティング練習を行った。社会人選手にもバッティングに参加いただき、パワフルでスピードのある社会人選手の打撃を見て衝撃を受けた選手も多くいたようだ。最後は中学生、高校生からの質問コーナーを設けた。試合に臨む上でのメンタルを問う質問が多く、練習や試合の心構えに不安を抱えている生徒が多いようだ。

8 次年度検討

今年度は中学生をお呼びしての実施となったが、高校生の参加チームが少なかったため、気仙沼向洋グラウンドの1会場で実施となった。中学生、高校生、社会人選手と3ステージの選手たちが集うことはなかなかないので、非常に有意義な野球教室となった。次年度以降も、子供たちにとって有意義な経験となるように社会人チームにご協力いただきながら企画していきたい。（担当：気仙沼向洋高校 小野寺）

令和7年度宮城県高等学校野球連盟東部支部南地区野球技術講習会 報告書

- 1 目的 高度な技術や知識を持つ社会人野球チームの指導により、加盟校の野球部員の技術向上を図ることを目的とする。
尚、本講習会は「令和7年度野球指導者講習会」を兼ねるものとする。
- 2 開催日時 12月6日（土）8：30～12：30
- 3 場所 石巻市民球場
- 4 講師 日本製紙石巻硬式野球部様
- 5 日程 8：00～ 講師打ち合わせ、会場準備
8：30～ 開会行事 指導開始
12：00～ 閉会行事
- 6 受講者 8校 87名

7 当日の様子

12月上旬の開催になり気温が心配されましたが比較的暖かいコンディションで開催することができました。日本製紙硬式野球部様からは選手、コーチ、マネージャーの計14名に参加いただきました。講師と高校生のマンツーマンで指導をいただく時間が多く、非常に有意義な時間だったと思われます。バッテリー陣はボールの握り方やプレートの使い方、野手陣はボールの投げ方や捕球方法などを個々のレベルに合わせてご指導いただきました。選手たちも年齢が近いこともあってか、いつもより積極的に質問をする姿も見られました。



8 次年度検討

前年度までは各校に講師を派遣し開催していましたが、今年度は社会人と高校生が一緒に練習をする形で開催してみました。また、11月下旬～12月上旬の開催になると学校行事と重なってしまう学校があるため、開催時期を再考する必要があると感じた。その他改善点やご意見ありましたら大越までご連絡ください。

＜追記＞

担当者がインフルエンザ罹患のため当日不在でご迷惑をおかけいたしました。分掌の垣根を越え対応していただき感謝申し上げます。今後は体調管理を徹底して行きたいと思いますのでよろしくお願いします。

（東部南地区 技術講習会担当：石巻好文館高校 大越）

令和7年度 宮城県高野連東部地区強化育成大会（報告）

（1）試合結果について

◆ 1日目 10/26(土),26(日)

・石巻工業グランド（石巻工業、石巻、佐沼）

①石工 17 対 2 石巻 (6回) ②佐沼 6 対 3 石巻(9回) ③佐沼 0 対 11 石工(7回)

1位：石巻工業 2位：佐沼 3位：石巻

・日本ウェルネス宮城グランド（日本ウェルネス宮城、塩釜、多賀城）

①ウェルネス 7 対 0 塩釜(7回) ②多賀城 3 対 11 塩釜(7回) ③多賀城 3 対 15 ウェルネス(7回)

1位：日本ウェルネス宮城 2位：塩釜 3位：多賀城

・石巻西グランド（石巻西、三校連合、松島） ※雨天中止（10/26）

①石西 対 三校連合 ②松島 対 三校連合 ③松島 対 石西

1位：石巻西 2位：松島 3位：三校連合 ※3チームで協議の上決定

・気仙沼向洋グランド（三陸沿岸連合、東陵、気仙沼）

①三沿連合 0 対 11 東陵(7回) ②気仙沼 8 対 8 東陵(8回) ③気仙沼 11 対 1 三沿連合(7回)

1位：東陵 2位：気仙沼 3位：三陸沿岸連合

※2日目は気仙沼が不参加のため、三陸沿岸連合が2位校トーナメントへ

◆ 2日目 11/1(土)の結果

・1位校トーナメント（石巻市民球場）※東陵が辞退のため、総当たり戦に変更

①石工 2 対 0 ウェルネス (9回) ②石西 5 対 1 ウェルネス (9回) ③石工 6 対 2 石西 (9回)

優勝：石巻工業 2位：石巻西 3位：日本ウェルネス宮城

・2位校トーナメント（松島球場）※グランド状況により2試合のみ実施

①三陸沿岸連合 7 対 3 松島 (9回) ②塩釜 5 対 1 佐沼 (9回)

・3位校リーグ（石巻高校グランド）※グランド状況により100分ゲームで実施

①石巻 2 5 対 0 三校連合 (4回) ②多賀城 5 対 2 三校連合 (7回) ③石巻 6 対 4 多賀城 (8回)

（2）反省点について

・各校のチーム事情を鑑み、学校行事にも配慮した日程にするなど、柔軟な対応ができた。

・ルールについては事前に意見を頂き、DH制とリエントリー制を実施することができた。

・2日目の試合まで保障することができた。

・2日目について、各会場担当で試合会場やルール等、短時間で臨機応変に対応して頂いた。

・2日目について、複数の球場を事前に確保してもらえると良い。

・球審は1日3試合配置してもらえると良い。

・来年度も、各校の事情を配慮し、時代に合った形で柔軟に対応していきたい。

宮城県高等学校野球連盟 北部地区 強化育成部 活動報告

宮城県築館高等学校 茂泉 公己
宮城県小牛田農林高等学校 佐藤 貴司
宮城県古川高等学校 森 慎吾

1 事業内容

- 1) 交流大会
- 2) 技術講習会

2 各事業について

- 1) 交流大会（北部地区独自大会）

1 大会要項

- 1 主 催 宮城県高等学校野球連盟北部支部
- 2 大会日程 令和7年11月2日(日)、11月3日(月)の2日間
- 3 大会会場 1日目：2会場 鹿島台中央球場・陶芸の里野球場・
2日目：2会場 鹿島台中央球場・陶芸の里野球場
- 4 参加チーム 北部地区加盟校(10チーム)
- 5 出場選手 各校1・2年生(人数が不足している場合は3年生も出場可)
- 6 試合方式 トーナメント方式

※当初、リンク制を考えておりましたが、参加校が10校ということもあり、今回はトーナメント方式での実施に変更させていただきました。

- 7 組合せ 別紙参照

1日目：1・2回戦(2会場)

2日目：準決勝・決勝(鹿島台中央球場)

1日目敗退校同士による交流戦3試合(陶芸の里野球場)

- 8 独自ルール
 - ① 試合時間を2時間とする。(2時間経過しそうになった場合、次のイニングに入るかどうかは球場内の関係者で判断する。)
 - ② 2時間で同点の場合は、タイブレークを行い勝敗が決するまで試合を継続する。
 - ③ 5回10点差、7回7点差でのコールドを適用する。
 - ④ 投手の球数制限は設けない

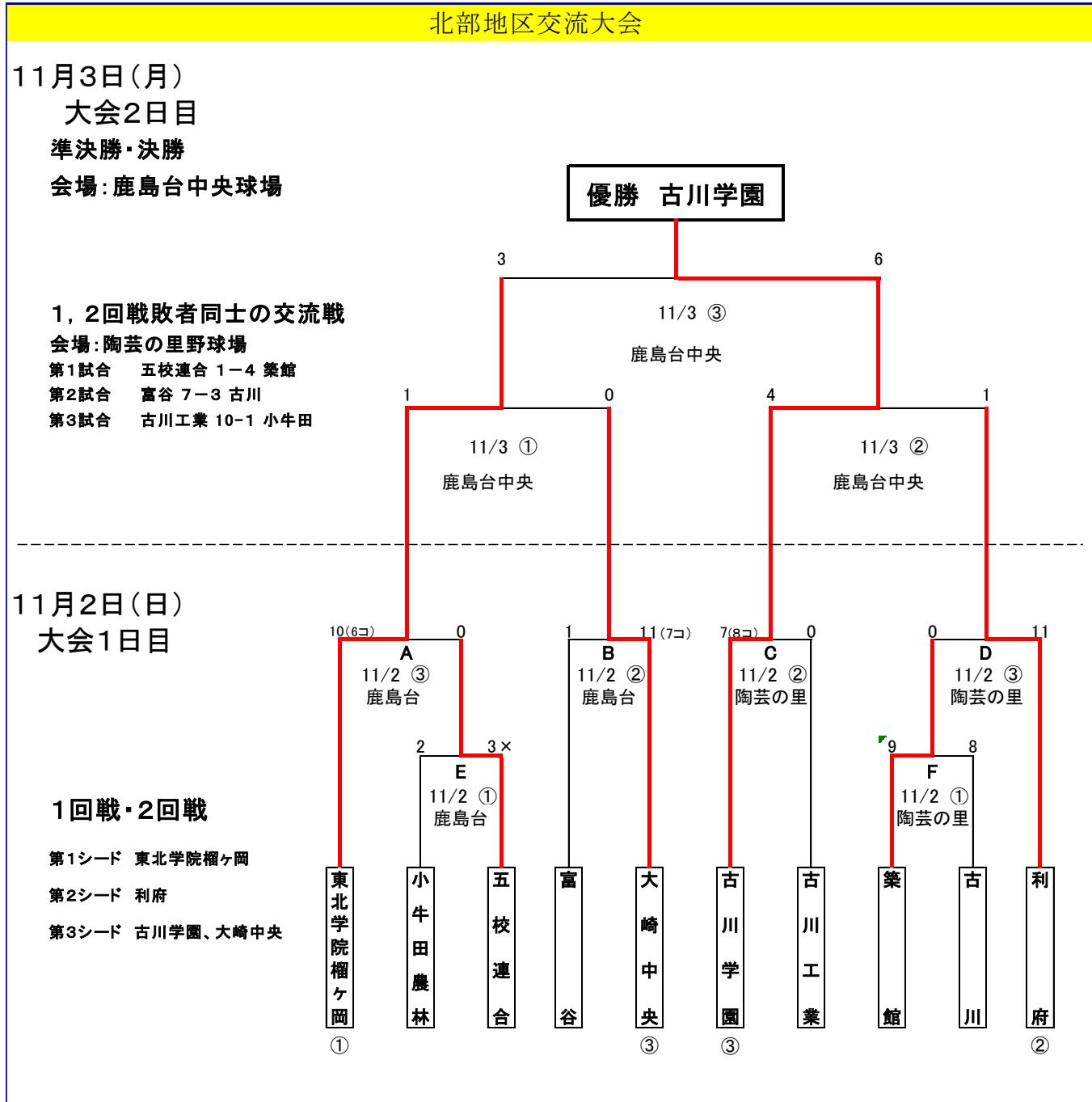
- 9 参加費 徴収しない(宮城県高野連から負担)

10 その他

- ・事前の選手登録は行わず、背番号の着用は各校の判断とする。
- ・試合前に立ち会いを行い、メンバー表の交換、先攻後攻を決定する。試合球3球、ロジン1個を各校で持ち寄る。(メンバー表は練習試合等で使用しているもので可。)

- ・各会場校の会場ルールに則り、各校で協力して試合運営を行う。
- ・審判は、主審のみ附属審判団に依頼済。墨審は各校補助員もしくは顧問の先生で行う。
- ・雨天時の判断（試合の開催・続行の可否）は各会場校で判断する。
- ・各校顧問の昼食は実費負担を原則とするが、各会場での判断に委ねる。

2 大会結果



以上の結果となった。

2) 技術講習会

1 要項

- 1 主 催 宮城県高等学校野球連盟北部支部強化育成部
2 日 時 令和7年11月8日（土） 8:30～15:00
3 指導者 七十七銀行 硬式野球部
4 対象者 北部支部管内 高校野球部員
1部：東北学院榴ヶ岡・古川工業・古川・連合・築館（選手77名）
2部：古川学園・富谷・小牛田農林・加美農業（選手72名）
5 会場 七十七銀行 野球グラウンド（〒981-3305 宮城県富谷市一ノ関臥合山1）
6 講習会内容 第1部 8:30 開講式
8:40 アップ・キャッチボール
9:00 守備練習
10:00 打撃練習
11:20 閉講式
第2部 12:30 開講式
12:40 アップ・キャッチボール
13:00 守備練習
14:00 打撃練習
15:00 閉講式

7 準備物

- (1) 参加選手は、当日、試合用ユニフォームを着用してください。
(2) バット・ヘルメット・キャッチャー防具など必要な道具は各校で準備してください。

8 その他

- (1) 参加人数が多いため、2回に分けての実施となります。
(2) 駐車場は右奥の駐車場をご利用ください。
(3) ご不明な点は担当：茂泉までお問い合わせください。

2. 内容

1 開講式

- 天候に恵まれ、無事に今年度の技術講習会を開講することが出来た。
普段の練習や試合と違った雰囲気に生徒はやや緊張の面持ちであった。



2 アップ・キャッチボール

- ・毎日実施するキャッチボールの中でのルーティンを教えたりしながら、選手一人ひとりに声をかけていただいた。



3 守備練習



- ・各ポジションでノックを受けたり、選手の実演を見たりしながら学ばせていただいた。

4 打撃練習



- ・スイングの良いところを伸ばすような声掛けをしていただいた。七十七銀行の選手の打球には会場全員が驚かされた。

5 閉講式

閉講式では築館高等学校の主将より感謝の辞を述べた。今回の講習会で学んだ事を、ただ練習するのではなく、極めるまでやるという決意の言葉があった。これから冬の期間に入る中で、選手一人一人が来シーズンへの決意を固めているように見えた。選手・指導者ともに成長できた1日であった。



令和7年度 宮城県高等学校野球連盟 普及振興部 活動報告

- 1 第1回普及振興部会 6月2日（月） 14:00～ 宮城県仙台東高等学校
・令和7年度事業について
- 2 各地区中高連携事業（別紙報告書参照）
- 3 選手権宮城大会始球式
・運営委員の先生方のご協力ありがとうございました
- 4 肩肘検診（普及振興部予算より）
・選手権宮城大会抽選会時
・オフシーズンの検診：12月、1月実施
- 5 北海道東北地区交流試合時のキッズ野球体験 11月8日（土） 石巻市民球場
・仙台育英、旭川実業の顧問及び選手とキッズによる野球体験
・キャッチボール、ストラックアウト、ティーボール等を実施
・約40名の参加
- 5 全日本野球サミット（別紙報告書参照） 11月15日（土） アジュール竹芝（東京都）
・富樫先生（県工）、佐伯先生（加美農）参加
・中体連及び全軟連の先生方も参加
- 6 栄養講座（補助）
・第1回 令和7年12月7日（日） 東北保健医療専門学校
・第2回 令和8年 2月1日（日） 東北保健医療専門学校
- 7 第2回普及振興部会 12月12日（金） 13:00～ 宮城県仙台東高等学校
・令和7年度事業について
・今後の普及振興活動について
・宮城県中体連野球専門部会との合同会議
→ 中学校部活動の地域移行についての情報共有等
・中高指導者の協議会設立を目指す（令和8年度）
- 8 東北地区普及振興会議 令和8年1月14日（水）～15日（木） 宮城県開催
・東北6県高野連普及振興担当者及び中体連専門委員長との合同会議
- 9 楽天コラボ野球教室
・令和8年2月28日（土）開催予定 会場：楽天室内練習場
- 10 子どもティーボール・少年野球教室（別紙評議員会資料参照）
・各校でのご協力に感謝いたします

令和7年度 宮城県高等学校野球連盟南部支部中学生対象技術講習会 事業報告

宮城県伊具高等学校 菅原 翔平

1 日 時	令和7年11月1日(土) 【軟式】9:00~12:00 中止 【硬式】13:00~16:00 令和7年11月3日(月) 【軟式】9:00~12:00
2 会 場	①蔵王球場(軟式、硬式) ※11月1日(土)開催 AM 中止 参加者14名 ②宮城県名取高等学校(軟式のみ) ※11月1日(土)開催 中止 ③宮城県仙台南高等学校(軟式のみ) ※11月3日(月)開催 参加者47名
3 対 象	軟式: ①大河原教育事務所管内中学校1・2年生 ②仙台教育事務所管内南地区中学校1・2年生 ③仙台太白区中学校1・2年生 硬式: 上記中学校3年生
4 内 容	軟式:基礎技術練習、実技(守備・打撃・走塁)など 硬式:基礎技術練習、実戦練習、 <u>肩肘検診</u> (※) ※富沢西スポーツ整形外科院長高橋博之先生に依頼

・11月1日(土) 蔵王球場会場



・11月3日(月) 仙台南高校会場



5 成果と課題

【成果】 今年度は中学3年生を対象に肩肘検診とストレッチ講座を実施し、多くの中学生が自分自身の身体に対して気づきを持つことができた。また2日間開催することで、雨天中止となった会場で参加予定だった中学生が他会場で参加することができた。アンケートを実施したところ、多くの中学生から好評な感想をいただき、特に土日に広いグラウンドでのびのびと野球を楽しめたことに喜びを感じた中学生が多かったことが印象的であった。顧問の先生方、手伝っていただいた高校生の皆さんにこの場をおかりして、感謝申し上げます。

【課題】 中学校側がノータッチで保護者から直接問い合わせがあり、顧問も誰が申し込んでいるのか分からぬというケースがあった。また3年生はほとんど進路先が決まっており、高校野球をすることも決まっていたので、高校野球人口を増やすためには早期開催を検討しても良いと感じた。

令和7年度仙台市中体連 野球専門部 交流事業への協力 実施要項

1 目 的 仙台市中学校野球連 野球専門部が主管となって行う各地区的交流事業に宮城県高等学校野球連盟 中部地区 加盟校の野球部員および指導者が講師となり交流事業に協力することで技術向上と競技理解を深め、地域全体での野球の発展と次世代育成を図る。

2 協力する団体 仙台市中体連 野球専門部 交流事業

3 日時／場所 AM9:00~12:00 PM13:00~16:00

東地区	12月 7日(日)	仙台三	AM 東地区①②	
		学院	AM 東地区③④	
西地区	12月13日(土)	仙台	AM 西地区①	PM 西地区②
		東北	AM 西地区③	PM 西地区④
南地区	12月 6日(土)	県工	AM 南地区①	PM 南地区②
		仙台一	AM 南地区③	PM 南地区④ ←削除でお願いします。
北地区	12月13日(土)	泉館山	AM 北地区①	PM 北地区②
		仙台商	AM 北地区③	PM 北地区④

北地区 南光台、ハ乙女、七北田、向陽台、加茂、将監、将監東、高森、寺岡、根白石、長命ヶ丘、
北仙台、台原、五城、上杉山、附属(松陵:休部中)

東地区 鶴が丘、南光台東、幸町、鶴谷、岩切、宮城野、東仙台、西山、田子、中野、高砂、東北学院、東華、南
小泉、蒲町、七郷

南地区 五橋、八軒、沖野、六郷、愛宕、長町、八木山、西多賀、富沢、郡山、人来田、山田、柳生、中田、袋原、
(生出:休部中)

西地区 第一、第二、三条、折立、南吉成、吉成、中山、桜丘、住吉台、館、南中山、大沢、広瀬、
錦ヶ丘、茂庭台、秋保、仙台青陵(広陵:休部中)

4 対 象 仙台市 中学野球部員 1~2年生

5 内 容 講習は軟式ボールで行います。※一部硬式も使用します。

◆内容は会場ごと実態に合わせて適宜準備の方をお願いします。

例)開会行事 → ウォーミングアップ → キャッチボール → 守備基礎・応用(ポジション別)
打撃基礎・応用 → トレーニング・ダウン → 閉会行事(質疑・応答)

6 担当地区 高野連中部地区の高校(監督・部長・コーチ) および部員

東地区	東北学院、仙台三、仙台東、仙台工業、仙台育英
西地区	仙台、広瀬、東北、仙台二
南地区	宮城県工業、仙台一、聖和学園
北地区	泉、泉松陵、生文大高、泉館山、仙台商業

7 準備物 軟式ボール（保管してある学校は会場校へお持ちください。） キャッチャー用具
フェイスガード、捕手マスク(ティーをする際中学生の技術力に留意してください！(着用必須)
その他の野球用具は中学生に持参するよう連絡済みです。

8 中学生への当日対応について

会場校に確認し、保護者送迎、見学可能と連絡しています。駐車場の案内お願いします。（先着順）
対応できない場合は、その場で断っていただいて結構です。
駐輪場の案内もお願いします。必ず施錠させてください。

9 悪天候が見込まれる場合

中止の場合は、以下の流れで当日 8 時までに中学生に連絡が届くようにお願いします。

「会場校」→「地区担当（高野連）」→「地区担当（中体連）」→「中学生」

担当：東：芳賀先生 西：石垣先生 南：富樫 北：大塚先生

担当 宮城県高等学校野球連盟
普及振興部 副委員長 富樫誠悦（宮城県工業高等学校）
TEL 022-221-5656 FAX 022-221-5656

令和7年度 県高野連東部支部（多賀城・塩釜・松島地区）小中育成事業 報告書

宮城県多賀城高等学校 畠山和之

1 日 時 令和7年11月29日（土）9：00～12：30

2 会 場 宮城県多賀城高等学校グラウンド

3 参加者 中学生 27名 1・2年生（25名）、3年生（2名）
高校生 77名

4 内 容 9：00～ 開会行事

9：15～ アップ

9：35～ 基本練習（キャッチボール、守備基本、スイング）

10：25～ ポジション別練習（投手・捕手・内野手・外野手）

11：00～ バッティング練習・ティーバッティング・学校紹介

11：50～ ダウン

12：10～ 閉会行事・写真撮影

5 実施報告

今年度の参加者は、中学1・2年生が25名、中学3年生が2名、計28名が参加した。当日、気温は若干低めでしたが風が無かったこともあり、怪我や体調不良者も無く、予定通り実施することができた。内容については、高校生が主体となり、中学生に対して、特にキャッチボールや基本的練習を重視して指導したこともあり、事後の中学生から「楽しかった」「大変為になった」等のコメントがあり、中学生のみならず高校生においても、大変有意義な一日となった。

6 今後の課題

例年、多賀城・塩釜・松島地区の小中育成事業は、時期的に中学3年生は引退していることもあります、対象者は中学1・2年生が主となる。3年生への参加を多く求めるのであれば、実施時期を検討する必要があると思われる。

これまで、小中育成事業の依頼文書は中学校の野球部顧問あてに送付している。不参加の場合であっても参加申込書を返信してもらうことをお願いしているのですが、今年度は29校に案内文書を発送して、10校しか返信がありませんでした。この事業に対しての中学校野球顧問側の理解が薄いように思われる。今後、中学校の部活動が地域移行になることもあり、小中育成事業の実施方法を検討する段階にきていると思われる。



令和7年度 宮城県高等学校野球連盟東部支部石巻地区 中高連携事業報告

宮城県石巻工業高等学校 利根川直弥

1 日 時 第1回 令和7年8月9日（土） 8：30～12：30
第2回 令和7年11月15日（土） 8：30～12：30

2 会 場 石巻市民球場

3 対象者 第1回 中学校3年生 19名
第2回 中学校1～3年生 35名

4 内容

〈第1回 8／9実施〉

- (1) 守備練習指導
 - ・ポジション別指導
 - ・ブルペン指導
 - ・シートノック指導
- (2) 打撃指導
 - ・ティーバッティング指導
 - ・フリーバッティング指導

〈第2回 11／15実施〉

- (1) 守備練習指導
 - ・ポジション別指導
 - ・ブルペン指導
 - ・シートノック指導
- (2) 打撃指導
 - ・ティーバッティング指導
 - ・フリーバッティング指導
- (3) 肩肘検診
- (4) ストレッチ・トレーニング指導

5 成果

- (1) 中学生及び高校生希望者に対し、肩肘の検診を実施できた（第2回）。中学3年生で2名、中学2年生で1名が、治療の必要なレベルでの症状が見つかった。特に中学3年生に対しての早期発見は、コンディションを整えた上で高校に入学することができるため、効果的なものであったと思われる。
- (2) 石巻野球会議と連携し、中学3年生希望者に対して、「高校野球準備セミナー」を実施した。日本製紙石巻（12/7 実施・参加者10名）と石巻専修大学（11/29 実施・参加者15名）、石巻野球会議普及啓発部（10/11 実施・参加者12名）のご協力のもと、これまで3回の野球教室を実施できた。

6 課題

- (1) 事業の存在を知らない中学生もいて、直接申込をしてきた選手も数名いた。顧問からの案内はなかったとのこと。中学校部活動の地域移行に伴い、周知方法等を検討していく必要があると思われる。
- (2) 北海道東北地区交流試合開催のため、中高連携事業を延期して実施した影響もあるが、参加人数が少なかった。（1）との関連もあり、参加人数の確保、そして、高校野球にどうつなげていくかについて検討が必要である。
- (3) 中学校から野球を始めている部員も多く、その中学生が高校でも野球を続けていきたいと思えるようなきっかけ作りや指導方法を模索したい。

令和7年度 高野連東部登米地区 小中育成事業報告

- 1 日 時 令和7年8月10日（日）9：00～13：00
- 2 会 場 登米総合産業高等学校野球場、体育館
- 3 参 加 者 登米市内の中学3年生 38名
- 4 講 師 佐沼高校、登米総合産業高校の各監督・部長・コーチ及び生徒
- 5 内 容 9時～13時
2グループに分けてローテーションで練習
①フリー打撃 ②守備

6 成果及び課題

- ・当日は朝まで雨天のため、体育館でアップまで行った。
- ・硬式ボールに慣れてもらうよう心がけた。
- ・参加したほとんどの生徒が高校でも野球を続けたいと話していた。
- ・来年度は1・2年対象の育成事業を計画する。



令和7年度育成事業報告(大崎地区)

【日程】10月4日(土)

13:00 受付	14:15 守備指導・打撃指導
13:30 開会行事	(グループ別)
13:40 ウォーミングアップ	
13:50 キャッチボール	15:30 閉会行事

会場:宮城県古川黎明中学校・高等学校(硬式の部)、大崎市立古川中学校(軟式の部)同時開催

参加者:硬式の部42人(中3 12人、中2 30人) 昨年44人

軟式の部35人(中2 15人、中1 20人) 昨年36人

高校指導者8人 佐伯、佐藤貴、菅野、朝倉、神戸、渡邊、清野、櫻田

補助員:古川学園20人、小牛田農林11人、大崎中央10人、古川黎明2人、加美農業(3年生)1人

(参加者の感想・回答者のみ・一部抜粋)

○良かった点

- ・高校生の人や高校の先生方がスムーズに講習会を進めてくれたこと。
- ・高校生のみんなが丁寧に教えてくれた点。
- ・高校の投手と実際にキャッチボールができ、投げる球のスピードに驚いた。
- ・高校生と身近に野球ができたり、他の中学生の練習姿を見たりすることができたのが良かった。

●改善した方が良い点

- ・選抜チームのセレクションの日でしたので遅れて参加となりすみませんでした。
- ・もっと細かく教えてほしい。

総括

- ・昨年度と同様、中体連の先生方と調整をし、午前中に大崎地区選抜チームの練習会を行う日の午後に設定した。中体連の事務局から各校へ連絡と呼びかけをしていただき、参加者数もほぼ同じであった。そのはたらきかけのおかげで現役世代の中2、中1の参加が多くなっている。

次年度へ向けて(検討事項・引き継ぎ事項)

- ・2会場開催2年目になるが、担当者1人では同時に回しきれないので、同様の形式とする場合、会場ごとに運営責任者がいた方がよい。
- ・実際には高校生が中心に中学生の実技に対応してもらうことになる。指導者数には限りがあるので、もう少し多くの高校生に協力願いたい。また、その役割分担や、ポジション別の人数など、事前指導ができればよい。

令和7年度 高野連北部地区主催 中学生育成事業（栗原市地区）について（報告）

1 期 日 第1回：令和7年9月28日（日）9:00～12:00
第2回：令和7年10月19日（日）9:00～12:00
第3回：令和7年11月16日（日）9:00～12:00
第4回：令和7年12月14日（日）9:00～12:00（雨天中止）

2 場 所 築館高校第2グラウンド

3 内 容 キャッチボール、走塁練習、守備練習（ポジションごと、ケースノック）、投球練習、バッティング（フリーバッティング、シートバッティング）

4 参 加 者 第1回：中学生13名（1年生：3名、2年生：2名、3年生：8名）
第2回：中学生14名（1年生：4名、2年生：6名、3年生：4名）
第3回：中学生8名（1年生：3名、3年生：5名）
第4回：雨天中止
補助高校生（22名）：築館19名、迫桜2名、岩ヶ崎1名
顧問（6名）：築館・岩ヶ崎・迫桜
指導者（第3回のみ）：渋谷祐太朗（七十七銀行）

5 反省等

- ・栗原地区の中学校と栗原ボーイズ（硬式）や栗原CLUB（軟式）に案内を出し、中学3年生だけでなく1・2年生にも参加対象を広げ、より参加してもらいやすい工夫をした。
- ・例年1回の開催だったが、今年度は複数回実施したことでの継続的な指導が可能になった。また1回のみでは都合があわなかつた中学生も参加できるようになった。
- ・希望者（中学1年生）には軟式ボールで対応した。本人の希望もあり、バッティング練習は硬式ボールで行った。
- ・第3回には築館高校OBである七十七銀行の渋谷祐太朗選手に来ていただき、キャッチボールや投球練習を指導していただいた。
- ・3回とも怪我なく実施することができた。
- ・12月にトレーニング等を取り入れた内容で、第4回を実施予定であったが、雨天のため中止した。



事後アンケートより

- ・とてもいい経験になった。
- ・先輩たちのプレーや、プレー中以外の行動からも勉強になることがあった。
- ・硬式ボールの取り方や捉え方を学ぶことができてよかったです。
- ・各高校の先生や生徒の皆さんととても親切に対応して頂きましてありがとうございました。今後また機会があれば参加出来ればと思います。
- ・バットが重かったです。
- ・高校生や3年生は硬式ボールでやっていて、僕は軟式ボールだから見やすかったけど、3年生や高校生は硬式ボールでやっていてよく見えるなと思いました。また機会があったらエラーしないよう頑張りたいと思いました。
- ・高校生の先輩にファーストの守備位置を教えてもらい参考になりました。
- ・中学の先輩が優しく迎え入れてくれて、楽しく話ができるよかったです。
- ・ありがとうございました。次回もあれば、参加します。
- ・走塁についての新しい知識が身についてよかったです。 など



宮城県高等学校野球連盟

普及振興部 北部地区

築館高校 大内 拓己

【報告】第1回 全日本野球サミット 2025年11月15日(土) <アジュール竹芝(東京都)>

1. サミット開催の主旨と結論

日本野球協議会主催により、「中学校部活動の地域展開（地域移行）」を最大のテーマとして開催された。少子化・教員不足により「学校単位の部活動維持」は限界を迎えていた。従来の枠組みを超え、プロ・アマ・行政が連携した「都道府県野球協議会」の機能強化と、受け皿となる「認定地域クラブ」の整備が急務との結論に至った。



2. 現状の危機的データ(中体連・スポーツ庁報告)

- 競技人口の激減： 野球競技人口は2007年の約160万人から、2024年には90万人未満へ半減。
- 現場の崩壊： 教員志望者の激減に加え、現職教員も負担増から顧問継続を断念するケースが多発。
- 移行の停滞： 部活動の地域移行は、休日ですら半数が不透明、平日に関しては全国の8割が「見通し不明」であり、受け皿不足が深刻化している。

3. 先進事例に見る具体的な解決策

全国で先行するモデルケースより、本県が採り入れるべき施策を以下に整理する。

① 組織体制と普及活動（北海道・長野県）

- 北海道： プロ（日本ハム）を含む22団体が連携。検診事業や障害者就労支援（ボール補修）など、社会課題解決とリンクさせ、野球の社会的価値を向上。
- 長野県： 県協会が戦略、地区協会が実行を担う。「高校野球200年構想」を活用し組織化。野球人口下げ止まり、団体間の意思疎通良化

② 持続可能なクラブ運営モデル（埼玉・京都）

- 川口クラブ： 教育委員会と連携し、教員が「有償ボランティア（副業）」として地域クラブ指導に参画できる制度を確立。
- 福知山ユナイテッド： 会費依存から脱却し、企業スポンサーと行政委託事業で財源を確保。指導者への適正な謝礼支払いと質を担保。

③ プロ連携による現場支援（巨人・広島）

- 指導の標準化（巨人）： 専門用語を使わない指導法で中学校を巡回。初心者の定着率を高め、都内中学部員数をV字回復させた。
- 運営負担の解消（広島）： 県内大学生を「学生審判員」として養成・派遣。新設大会では「教員負担ゼロ（運営・審判は学生と連盟）」を実現。

4【報告】全日本野球サミット パネルディスカッション要旨

テーマ： 中学校部活動の地域移行に関する現状整理と課題・提言

ファシリテーター： 栗山 英樹 氏（元侍 JAPAN 監督）

1. 議論の背景

中学校部活動の「地域移行」は、単なる活動場所の変更ではなく、日本のスポーツ育成システム全体の転換点である。現場教員、地域クラブ、行政、プロ球界の代表者が集い、直面する課題と解決策を議論した。



2. 地域移行を阻む「3つの壁」と解決策

① 資金の壁：誰が負担し、どう集めるか

数百億円規模とされる移行予算に対し、保護者の会費負担だけでは限界がある。

- ・課題：教員が校務の傍らでスポンサー営業を行うのは不可能（川口クラブ・武田氏）。

- ・提言

- >スポーツ庁・文科省に加え、部活動を「健康促進」と捉え厚労省予算なども活用すべき（斎藤佑樹氏）。
- >クラブ側に「稼ぐための専門人材（営業・事務）」を配置し、地域企業からの協賛を得るモデルへの転換（福知山ユナイテッド・片野氏）。



② 指導者の壁：量と質の確保

教員の負担軽減と、指導者不足の解消が最大のボトルネックである。

- ・課題：現場教員には決定権がなく負担のみ増大。既存の「勝利至上主義」的な指導からの脱却が必要。

- ・提言

- > 指導者は技術を教え込むのではなく、「選手の自主性・判断力を引き出す支援者（ジャイアンツメソッドの提唱）」であるべき（読売巨人軍・倉俣氏）。

- > 1チーム専属ではなく、巡回型コーチによる指導体制を構築し、人材不足の解消と質の平準化を図る。

③ 制度・情報の壁：地域格差と「空白」

制度設計が追いつかず、保護者や子どもが路頭に迷うリスクがある。

- ・課題：自治体によって進捗に大差があり、所属先・料金・責任の所在が不明な「空白」が生じている（長野県野球協会・小林氏）。非認定クラブによる不透明な運営も懸念。

- ・提言

- > 「認定地域クラブ」制度に基づき、料金・安全・資格の最低基準と監査体制を整備し、子どもを守る（スポーツ庁地域スポーツクラブ活動アドバイザー・石川氏）。

- > 行政→学校→保護者の公式情報ルートを一本化し、選択肢を早期に可視化する。→ 県団結→協議会

3. 総括と今後の方向性

本議論により、地域移行は「学校（教員）依存からの完全脱却」と「野球界全体での資源（カネ・ヒト）の再分配」が不可欠であるとの結論に至った。

1. 財源：受益者負担+公的資金（複数省庁）+民間協賛のベストミックス。
2. 指導：「勝利」から「育成・生涯スポーツ」へ価値観を転換。
3. ガバナンス：野球界が主導して「認定クラブ」のモデルを示し、悪質なクラブを排除する。

4.

【結びの言葉】

「野球界を一つにして、この国を支えるスポーツの形をつくる。」

野球が他の競技の見本にならなければならない。

地域移行は危機ではなく、野球界がその責任と可能性を示し、未来の子どもたちの環境を再構築する最大の好機である。」

（栗山 英樹 氏）



会の終わりには球心会より王貞治氏が挨拶。このサミットの本気度がここからも伝わった。



宮城県高野連審判規則部

令和7年12月26日（金）
第3回理事会・第2回評議員会資料

【1】令和7年度行事事業報告ならびに反省提案事項

1) 第1回審判講習会・附属審判団総会

報告 日時：令和7年3月9日（日）

場所：仙台育英学園高校グランド

モデルチーム：中部/東②（仙台育英学園高選手30名・顧問2名）

附属審判団：52/82名

高野連：8名

内容：開講式、フォースプレイ判定、投球判定、盗塁判定、投球関連動作の確認、閉講式

2) 全国審判講習会：令和7年5月5日（月）・6日（火）

報告 阪神甲子園球場

参加者：中部地区（浅野卓也）

3) 東北地区審判講習会：令和7年5月31日（土）・6月1日（日）

報告 山形県開催（4名参加）

参加者：中部（新野祥平）南部（山下大輔）東部（千葉裕介）北部（黒沼修）団長（高橋勝）

4) 第2回審判講習会

報告 日時：令和7年6月15日（日）

場所：鷹来の森運動公園野球場

モデルチーム：東部地区（日本ウエルネス宮城高校46名・顧問3名）

審判団：44/82名

高野連：7名

内容：全国講習会の伝達、開講式、投球判定、挟殺プレー、特別規則等の適用確認、投球動作の確認、閉講式、東北講習会の伝達、

5) 審判規則委員会

報告 日時：令和7年8月1日（金）

場所：石巻市民球場会議室

参加者：理事長・副理事長・審判規則部（委員長・副委員長・各地区チーフ）

4地区理事・軟式部会・附属審判団理事（5/5名）

内容：第72回春季県大会・第107回選手権大会を振り返って事例アンケートに基づいて検証し、秋季大会抽選会で周知

審判団より～

・重点事項のマナーの向上

（指導者のインプレイ中のグランド立入・選手のネックレス・一人歩きタイム・投手の給水・選手治療の時間目安・ベンチからのアピール等）

・団員確保の依頼

6) 各地区実践研修会

報告 日時：シーズン中に各地区実施⇒

南部（3/28）中部（実施できず）東部（4/20）北部（3/22）

内容：練習試合形式で塁審を中心に審判団の研修

7) 第3回審判講習会

報告　　日時：令和7年10月19日（日）

場所：名取市民球場

モデルチーム：仙台城南高30名・仙台高専13名・顧問5名

審判団：38/82名（新入団3名・高校生1名参加）

高野連：7名

内容：開講式、フォースプレイ判定・タッグプレー判定・打球判定、投球判定、

実践形式によるノック、投球動作の確認。閉講式

8) 附属審判団理事会・納会

報告　　日時：令和7年11月15日（土）

場所：ホテルベルエア仙台（会長・副理事長・審判規則部委員長・軟式部会4名参加）

内容：令和7年度事業報告・中間決算報告、令和8年度事業計画案・予算案

【2】令和8年度行事事業計画（案）

1) 第1回審判講習会・附属審判団総会（中部地区西①）

日時：令和8年3月8日（日）予定

場所：未定

モデルチーム：中部西地区①（生活文化大学高・仙台高・仙台二高・宮城工業高）

2) 東北地区審判講習会

日時：令和8年5月30日（土）・31日（日）

場所：石巻市民球場予定・石巻グランドホテル予定

モデルチーム：5月30日（土）未定

5月31日（日）東陵高校

3) 第2回審判講習会（北部地区）

日時：令和8年6月21日（日）予定

場所：未定

モデルチーム：北部地区

4) 規則委員会

日時：令和8年7月31日（金）予定

場所：仙台工業高校予定

5) 第3回審判講習会（東部地区③）

日時：令和8年9月27日（日）予定

場所：未定

モデルチーム：東部地区③（佐沼高・登米高・登米総産高・南三陸高・気仙沼高
気仙沼向洋高・東陵高）

6) 審判実践研修 ⇒ 各地区的地区理事と審判団支部理事で計画しシーズン中（1回）に実施 (年間行事欄外記載)

7) その他（派遣・審判講習会）

①第66回全国審判講習会（1名派遣）日時：未定 場所：阪神甲子園球場予定

【3】その他

1) 審判団員募集について

2025年度審判団総数82名（南部17名・中部20名・東部24名・北部21名）

～審判団員の確保の為に～

大会パンフレット記載・高野連HP・マスコミ等の協力・OB会や卒業生への声掛け等により、次年度は4名が加入予定（内女性1名）。

DHを使う

- ・指名打者の打撃義務 5.11(a)(2)

- ・指名打者の解除が可能

後程

- ・解除後に、再び設定はできない

- ・指名打者のブルペンでの活動について

後程

DH消滅になるケース

- | | |
|--------------------------------|-------------|
| ① 投手が他の守備についていた場合 | 5.11(a)(8) |
| ② 代打者または代走者が試合に出て、そのまま投手となった場合 | 5.11(a)(9) |
| ③ 投手が指名打者の代打者または代走者になった場合 | 5.11(a)(10) |
| ④ 指名打者が守備についていた場合 | 5.11(a)(12) |
| ⑤ 他の守備位置についていたプレーヤーが投手になった場合 | 5.11(a)(14) |

規則5.11(b) 【いわゆる大谷ルール】

- ・打撃の得意な投手もいる
- ・1人の選手が投手にも指名打者にもなれる
- ・先発投手に限り、

メンバー表B			
打順	位置	氏名	背番号
1	8	佐藤	8
2	4	鈴木	4
3	DH	大谷	17
4	3	田中	3
5	5	伊藤	5
6	7	渡辺	7
7	6	山本	6
8	9	中村	9
9	2	小林	2
P		大谷	17

接次選手	氏名	背番号	学年
			学年
加藤	1		
吉田	10		
高橋	12		
佐々木	13		
山口	14		
松本	15		
井上	16		
	コ チ		

打順表へ投手とDHの双方に同じ者を記載

- ・「登板中は同一人物、退いた後は別個」扱い



出 場 選 手 名 簿

試合日 20 年 月 日 第 試合 球場名

審 判 (球) (一) (二) (三)

先攻・後攻	チーム名	高等学校	
責任教師		監督	
ノック一		記録員	

主将の背番号に○印を付けてください

打順	位置	フ	リ	ガ	ナ	背番号	学年	備考
		選	手	氏	名			
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
	P							

背番号	フ リ ガ ナ	学年	備考	背番号	フ リ ガ ナ	学年	備考
	選手氏名				選手氏名		
					</td		

「宮城アスリート栄養アップデート会 2025」第1回 開催報告書

1. 開催趣旨・概要

本事業は、「高校野球200年構想」が掲げる科学的根拠に基づいた選手育成の理念を、宮城県において具体的に推進する初の試みです。高校球児の体力強化・体質改善およびパフォーマンス向上を目指し、栄養学と身体測定を融合させた実践的なプログラムを実施しました。

- ・ 事業名：宮城アスリート栄養アップデート会 2025（日本高野連 高校野球200年構想 特別事業）
- ・ 日 時：2025年12月7日（日）
- ・ 会 場：東北保健医療専門学校
- ・ 対 象：宮城県高野連加盟校 野球部員、指導者、保護者
- ・ 講 師：本田 薫 先生（公認スポーツ栄養士／岩沼市岩沼南小学校 管理栄養士）
- ・ 協 力：日本高等学校野球連盟、日本栄養士会、日本スポーツ栄養学会、東北保健医療専門学校
- ・

2. 講演「指導者・保護者も知ってほしい高校球児のための栄養講座」

開会にあたり、日本高野連理事・海老久美子先生（立命館大学）より、本事業の意義と公認スポーツ栄養士の役割についてご挨拶をいただきました。本田薫先生による講演では、知識提供に留まらず、選手自身が「学ぶことで成長できる」と実感できる実践的な指導が行われました。



① 成長期の身体特性と栄養戦略

身長の伸びがピークを越え、骨格・筋肉が完成に近づくこの時期の栄養摂取が、将来の強靭な身体の土台となることを科学的データに基づき解説。

② エネルギーバランスと食事構成

運動量に見合う摂取カロリーの確保と、「主食・主菜・副菜」の重要性を強調。当日は参加者が持参した弁当箱を用いて内容量とバランスを視覚的に確認し、事前課題（3日間の食事記録）と照らし合わせる指導を行いました。

③ 「補食」の戦略的活用

補食を単なる間食ではなく、練習の質を高め疲労回復を促す戦略的栄養補給と位置づけ、おにぎりやバナナ等の具体的な推奨品目を提示しました。

④ 自己管理能力の育成

体重だけでなく「除脂肪体重（筋肉量）」に着目し、自身の身体データを客観的に把握・管理するサイクルの重要性が説かれました。



3. 測定会と実践的アプローチ

座学の知識を「自分ごと」として捉えるため、最新機器を用いた測定を行い、身体の状態を可視化しました。



● InBody（体成分）測定：

筋肉量、体脂肪率、左右バランス等を測定

アプリへ即時転送。選手自身のスマホで経時的なデータ管理を可能にしました。(握力も測定)

● 栄養状態の可視化：

「ベジメーター」「ヘモグロビンメーター」

野菜摂取レベルの測定、ヘモグロビン値の簡易測定を実施。食事の質や貧血リスクを数値で確認



● フィジカル測定：

肩の外旋筋力、背筋力、柔軟性、バランス能力を測定。

現状を数値化することで、具体的な改善アドバイスへと繋げました。

4. 今後の展望

第2回講座は2026年2月1日（日）に開催予定です。次回は今回の測定データと食事記録を比較・分析し、個々の選手へより具体的なフィードバックを行います。案内を来年1月中旬にお送りますので今回の参加者へご連絡お願いいたします。



宮城県高野連軟式部からの提出案件

R7.12.26

軟式部委員長 長谷川 智和

案件 1. 協議

- ・全国高等学校軟式野球選手権東東北大会の宿泊を強制しない。

(1) 動機

- ①春季東北大会にて、当初敗戦しても宿泊しなければならない設定であり、理解し難かった。
- ②東東北大会は軟式独自のものであり、現状、岩手と宮城で開催しており、距離的に遠くない。
- ③出場校の移動中の事故、出場校の平等感が、宿泊を強制する動機と考えられる。利府であれば 仙台から 40 分、盛岡から 2 時間、北上や一関からは 1 時間 30 分の移動時間であり、宮城の学校との移動時間の差 1 時間は、宿泊(普段と違う環境によるストレス、宿舎からの移動時間 30 分程度)と比較して、移動による疲労が不平等であるとは言えない。
- ④宿泊費、バス代が高騰しており、負担軽減が望まれている。
- ⑤雨天時や敗戦時に、帰れるにもかかわらず泊りを強制される現状に、反対意見が顧問から上がって いる。

(2) 具体的な提案

- ①宿泊を強制せず、柔軟に対応する。宿舎のあっせんは行う。

案件 2. 報告

(1) 令和 8 年度行事計画

春の選抜交流試合：5/4(月)@甲子園球場 (兵庫)

春季大会：5/19(火)～5/26(火)@利府

選手権大会：7/4(土)～7/7(火)@仙台市民

全国大会：未定 (R7 は 8/24～29) @明石球場 (兵庫)

青森国スポ：10/2(金)～10/6(火)@はるか夢球場、県営球場

秋季大会：未定 (案①10/3(土)～10/8(水)@松島、利府)

(2) 令和 7 年度高体連強化事業報告

てきぱきとした動き、返事、態度から多くのことを学べました。攻撃では、たたき、バント、エンドランを見せてもらいました。決まらないこともありましたが、我慢強く、前向きな姿勢が見られました。守備でも、果敢にダイビングキャッチをするなど、積極的な姿勢が光りました。伝統もあり、野球に向かう姿勢が特に勉強になりました。





令和 7 年 12 月 26 日(金)
岩ヶ崎高等学校 南生一樹
石巻北高等学校 村上拓也

第 56 回明治神宮大会視察報告

■試合について(『投手名▲』は左投手)

11 月 14 日(金)第 1 試合

英明(香川)対帝京長岡(新潟) (5-2 で英明が勝利)

チーム	投手	投球回	投球数	被安打	奪三振	四死球	失点(自責)
英明	富岡 ▲	9 回	151	4	3	8	2 (0)
帝京長岡	工藤 ▲	7 回 1/3	143	5	5	7	5 (4)
帝京長岡	渡部	1/3	6	0	1	0	0 (0)
帝京長岡	西脇 ▲	1 回 1/3	14	0	0	0	0 (0)

・両投手ともにヒットや四球等でランナーを出すもそこから簡単には進塁はさせない粘りのピッチング。

・1 対 1 の同点で迎えた 6 回表 英明が 1 アウト 2,3 墓のチャンスで打者は 9 番投手の富岡。強攻策も(2B2S)になる。その後、伝令で打者に声をかけ、ヒットエンドランを仕掛けて、結果セカンドゴロで勝ち越して 2 対 1 に。

・2 対 1 で迎えた 8 回表 英明が 1 アウト 2,3 墓のチャンスで打者は 8 番三塁手の榎本。強攻策も(2B2S)になる。またなにか仕掛けてきそうだが、何もせず結果四球で満塁に。次の 9 番富岡が初球をレフトオーバーで走者一掃のタイムリー 2 墓打で 5 対 1 に。

11 月 14 日(金)第 2 試合

山梨学院(山梨)対帝京(東京) (6-3 で山梨学院が勝利)

チーム	投手	投球回	球数	被安打	奪三振	四死球	失点(自責)
山梨学院	木田▲	3 回	40	1	1	1	1(1)
山梨学院	檜垣▲	2 回	39	3	2	1	2(2)
山梨学院	菰田	1 回 1/3	24	2	1	0	0(0)
山梨学院	渡部▲	2 回 2/3	34	1	0	0	0(0)
帝京	仁禮パスカル▲	7 回 2/3	127	13	1	2	5(4)
帝京	岡田	1 回 1/3	21	2	0	1	1(1)

・山梨学院は継投策、帝京高校は仁禮がいけるところまで。山梨学院の檜垣、渡部は本格派左腕。木田、仁禮は技巧派左腕。菰田は怪我明けで最速 142 キロ。なお、菰田はこの大会主に三塁手として出場。

・山梨学院が 6 回以外毎イニングヒットを打つも要所を抑えられ、なかなか得点できず、7 回終了時点で 2-3。8 回表 2 アウト満塁で打者は 1 番石井。初球を打って右中間へ走者一掃のタイムリー 2 墓打で 5-3 に。

・山梨学院の選手は、どんな打球であっても 1 墓まで全力で走っており、7 回に得点した場面も併殺崩れて出塁したランナーが返ってきて得点に結びついている。

11月15日(土)第1試合

中京大中京(愛知)対神戸国際大附(兵庫)(0-7(7回C)で神戸国際大付が勝利)



チーム	投手	投球回	球数	被安打	奪三振	四死球	失点(自責)
神戸国際大附	豊岡	7回	93	5	5	3	0(0)
中京大中京	安藤	3回2/3	53	5	1	0	5(5)
中京大中京	太田▲	2回1/3	33	2	3	0	2(2)
中京大中京	大須賀	1回	14	1	1	0	0(0)

- ・神戸国際大附は、1回1番田中が先頭打者本塁打。2回5番石原がソロ本塁打。4回8番井本が2ラン本塁打。5回併殺崩れ(打者走者が1塁に到達するのが早い)→2アウト1,3塁でチャンスが継続し、次の打者がタイムリーヒット。5回終了時点で7-0となった。
- ・中京大中京は、豊岡の140キロ越えの速球に差し込まれる場面が多かった。中京大中京は2,5回にチャンスを作るも低めのボール球に手を出し得点できなかった。

11月15日(土)第2試合

花巻東(岩手)対崇徳(広島)(3-1で花巻東が勝利)

チーム	投手	投球回	球数	被安打	奪三振	四死球	失点(自責)
花巻東	萬谷▲	9回	125	6	6	3	1(1)
崇徳	徳丸▲	8回	120	9	9	1	3(2)

- ・萬谷、徳丸ともに140キロ前後の直球をインコース、アウトコースそれぞれに投げ分けられていた。三振を取るパターンは、①直球で追い込んで低めのボールになる変化球に手を出させる。もしくは、②変化球でストライクを取つてインコースの厳しいところに直球を投げ切る。
- ・2回のノーアウト1,2塁では普通に二塁手がサインを出していたが、4回ノーアウト1,2塁のケースで三塁手の古城が牽制や守備位置のサインを出していた。牽制はブルドッグでランナーを誘って飛び出したところを狙う形。
- ・6回4番古城が高めの直球をフルスイングして木製バットで本塁打。3番赤間と4番古城は、どのボールに対しても強振しており、スイングするだけ球場を沸かせていた。
- ・萬谷はピンチになってからも落ち着いて変化球を低めに集めて、打ち取る粘りのピッ칭。徳丸は8回に制球が定まらなくなり、そこを花巻東打線がつかまえた。

11月16日(日)第1試合

北照(北海道)対英明(香川)(1-2で英明が勝利)

チーム	投手	投球回	球数	被安打	奪三振	四死球	失点(自責)
英明	松本倫	6回2/3	96	8	3	2	1(1)
英明	富岡▲	2回1/3	47	4	1	1	0(0)
北照	中谷	4回	74	4	2	2	1(0)
北照	島田	5回	58	3	4	0	1(1)

- ・英明は背番号『4』松本 優が先発。テンポ良く投げ、打たせて取る投球。北照は背番号『19』中谷が先発。この日の最速は147キロで直球を低めに集められていた。
- ・中谷の直球に対して英明打線はコンパクトに振り抜き、単打を積み重ねた。4回ツーアウトからエラーで出塁したランナーが初球で盗塁。次打者が直球をライトに綺麗に流して得点に繋げていた。
- ・英明の守備が堅く、打者の打力や走力を考えて極端なシフトを敷く場面も見られた。8回ツーアウト満塁のピンチも遊 池田が後方のフライを上手に捕球していた。

11月16日(日)第2試合

九州国際大付属(福岡)対山梨学院(山梨)(6-5で九州国際大付がサヨナラ逆転勝利)

チーム	投手	投球回	球数	被安打	奪三振	四死球	失点(自責)
九州国際大付	岩見▲	7回2/3	124	4	8	6	4(3)
九州国際大付	渡邊	1回1/3	25	1	0	3	1(0)
山梨学院	檜垣▲	5回	79	6	4	3	3(3)
山梨学院	木田▲	3回	27	2	1	0	1(1)
山梨学院	菰田	0回2/3	23	1	1	2	2(2)

- ・九州国際大付は岩見が先発。後に決勝でも好投する1年生左腕。力強い直球が印象的で、この日の最速は140km/h。山梨学院は檜垣が先発した。スライダーのキレがよく、相手打線に低めの変化球を振らせていた。
- ・山梨学院がヒットと相手のエラーで率先よく2点を先制したが、4,5回と先頭打者に四死球を与えてその走者が生還して、5回終わって2-2の同点。
- ・九州国際大付が6回6番久保田の本塁打(山梨学院はここで投手交代して檜垣→木田)、7回牟禮(むれ)の本塁打でリードを広げる。
- ・山梨学院は8回2アウト満塁から8番藤田ライト前ヒット打ち、ライトが捕手に大暴投して3点を奪い逆転したが、9回ツーアウト満塁からワイルドピッチで一気に2点が入り、5-6でサヨナラ負け。捕手の捕球体制が問題か?



《全体を通して》

▼ 攻撃面

- ・今大会は本塁打が10本(昨年3本)と多く、新規格に順応してきている打者が増えていた印象をもった。
- ・力強いスイングの選手もいれば、小技で乱そうとしてくる選手等、自身の持ち味を發揮している選手が多くいた。
- ・走塁の意識が高いチームが多かった。(一塁への到達タイムが早く4.0秒~遅く4.5秒くらい)
- ・3バントの選択肢は少なかった。(追い込まれたときにランナーを他の方法で進める作戦を取るチームが多かった。)

▼ 守備面

- ・外野の守備シフトが深めて単打でも2塁に行くケースがあった。
- ・英明はカウントに応じて(2ストライクで追い込んだとき等)守備位置を動かしていた。

令和 7 年度地区大会検討委員会より

令和 7 年度第 5 回地区大会検討委員会での協議事項について

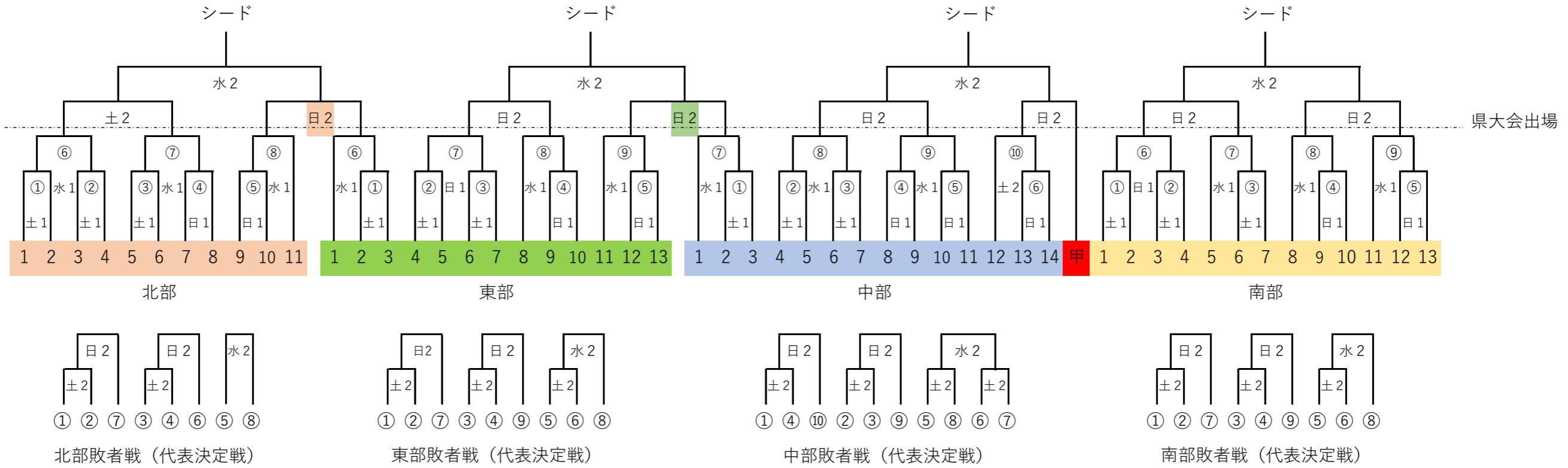
(1) 令和 8 年度秋季大会について

11 月 21 日（金）に各地区で行った顧問会議の結果、令和 8 年度秋季大会については、シード決めをして欲しいという意見が強かった。4 地区の意見を踏まえ、検討委員会で協議した。その中で、各地区でトーナメントを作成し、一次予選勝ち上がりチームをシード校とする案と、一次予選の勝ち上がり校と甲子園出場校を含めたシード決定戦という案が出てきた。そこで、11 月の会議で検討委員会から各地区に提案した 2 勝以上で県大会の案にシード決定戦を含めた形式を取り入れたものの 3 案を各校に提示し、どの方法が良いか、アンケート形式で意見をもらうことで令和 8 年度の秋季大会を決めていきたいということになった。

(2) 令和 8 年度春季地区大会について

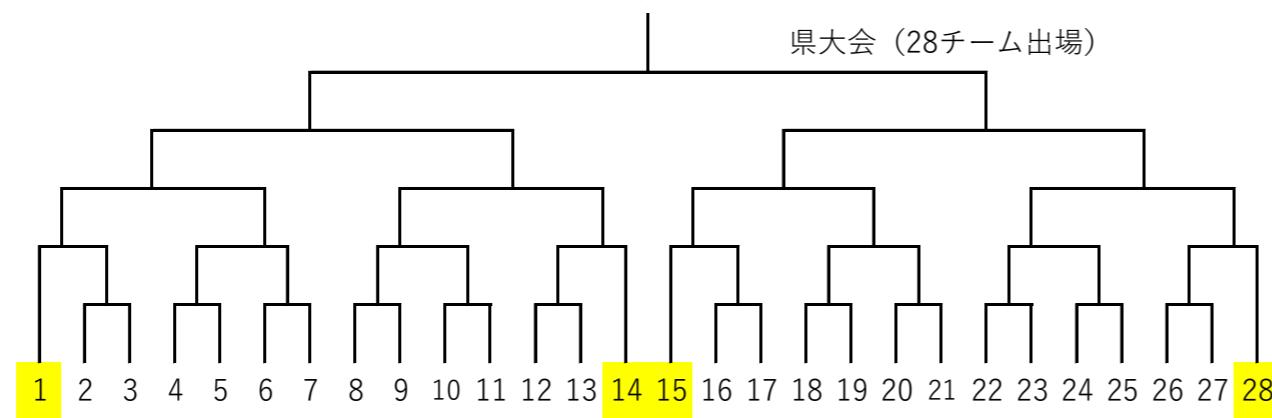
令和 8 年度春季大会については、検討委員会より令和 8 年度秋季大会と同じ方法で実施したいと提案したのだが、令和 8 年度秋季大会のやり方が現段階で決定していない状況の中で、次年度の春季大会を新しい形式で実施することは困難であることから、検討委員会で協議した結果、令和 8 年度春季大会は、これまでのリンク制を継続して実施する方向で意見がまとまった。ただし、これまでの春季大会の反省事項の中で、5 校リンクで、2 勝したチームが 2 つで、1 勝 1 敗が 1 チームとなった場合に、1 勝 1 敗チームが 2 次予選に出場出来ないことに反対する意見が多かったため、令和 8 年度春季地区大会からは 1 勝 1 敗のチームは 2 次予選に入る（5 校リンクのところも含めて）ということを提案したいということになった。

1次予選

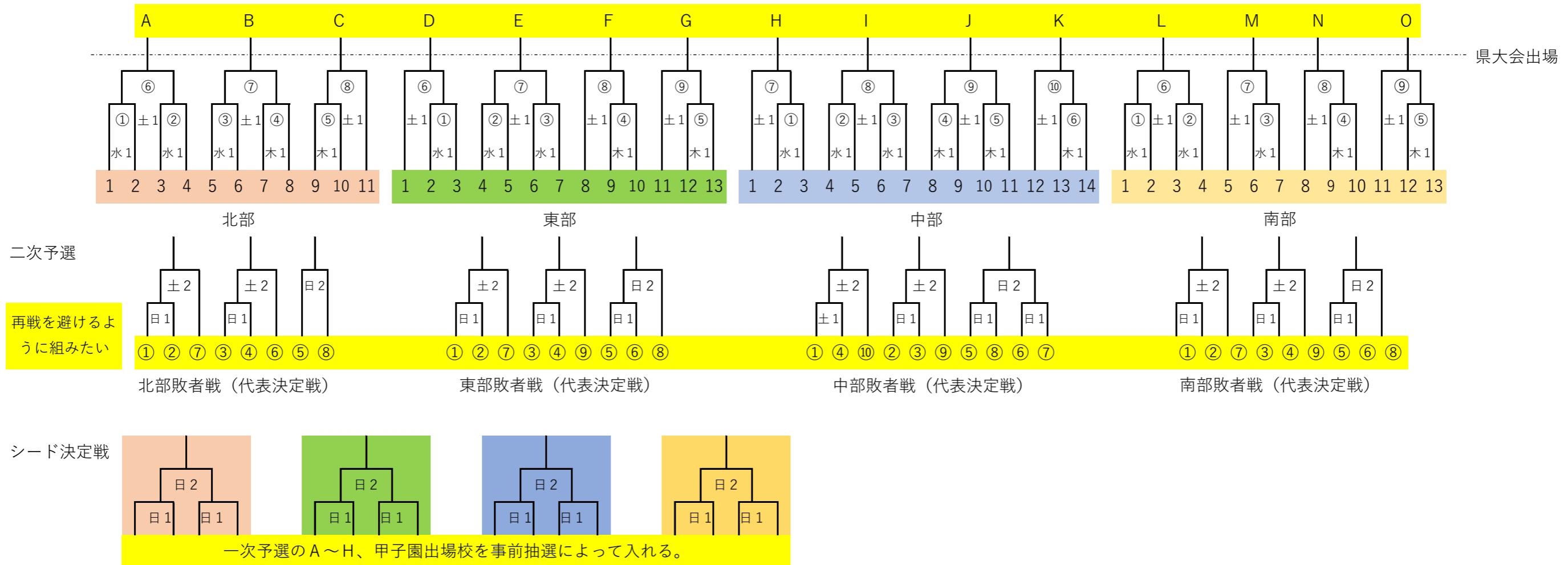


- 各地区3~4チームでトーナメントを作成
- 1次予選で勝ち上がった15チーム+甲子園出場校が県大会出場
- 1次予選勝ち上がりチームは県大会のシード (4枠?) をかけて地区をまたいだ試合を行う
- 1次予選敗者チームで代表決定戦を行う。
- 県大会出場校数は28チーム (北: 6 東: 7 中: 7 南: 7 甲子園: 1)
- ※今年度の成績から、甲子園出場校は中部地区から出たと仮定している
- 県大会ではシード4チームがそれぞれのブロックに入る
- 試合数は県大会まで合わせて合計100試合 (3位決定戦含む)

予選試合数	北	東	中	南
土1	3	3	3	3
日1	2	3	3	3
水1	3	3	3	3
土2	3	3	5	3
日2	3	4	4	4
水2	2	2	2	2
	16	18	20	72



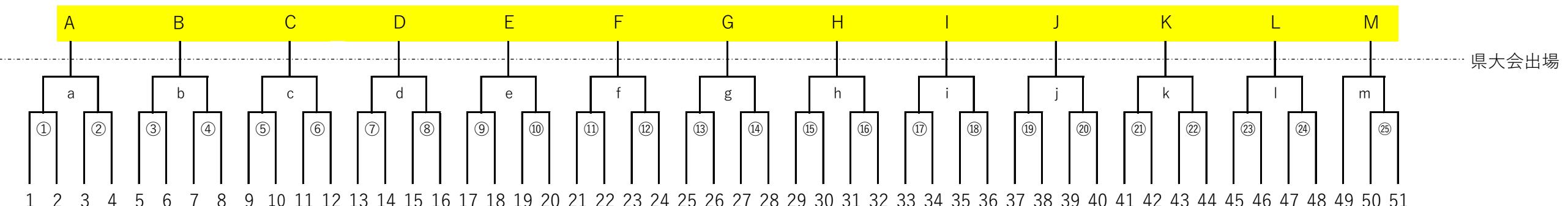
一次予選



- 各地区3～4チームでトーナメントを作成
- 1次予選で勝ち上がった15チーム+甲子園出場校が県大会出場
- 1次予選勝ち上がりチームは県大会のシード（4枠？）をかけて地区をまたいた試合を行う
- 1次予選敗者チームで代表決定戦を行う。
- 県大会出場校数は28チーム（北：6 東：7 中：7 南：7 甲子園：1）
- ※今年度の成績から、甲子園出場校は中部地区から出たと仮定している
- 県大会ではシード4チームがそれぞれのブロックに入る
- 試合数は県大会まで合わせて合計100試合（3位決定戦含む）

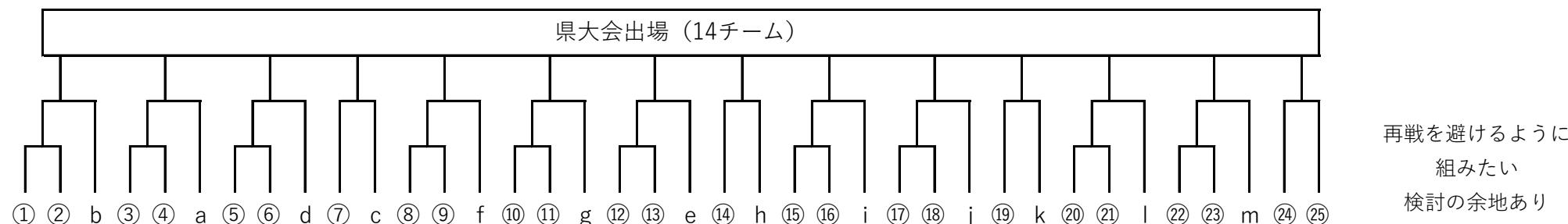
予選試合数	北	東	中	南
水1	3	3	3	3
木1	2	2	3	2
土1	3	4	5	4
日1	4	5	5	5
土2	2	2	2	2
日2	2	2	2	2
	16	18	20	18

○ 一次予選:2勝したら県大会。負けチームは敗者戦に回る。



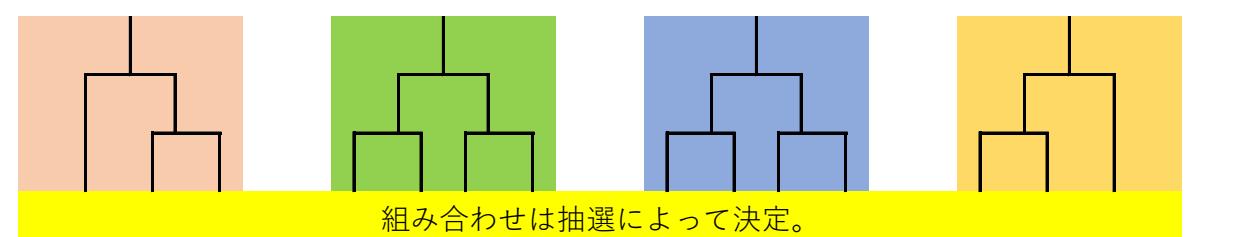
今年度と同じように、甲子園出場校を除くチームを地区ごとに並べて試合。（地区の並び順は抽選によって決定？）

○ 二次予選(敗者復活):勝ち上がった14チームが県大会出場。



○ シード決定戦:一次予選勝ち抜けのA~M(13チーム)と甲子園出場校の計14チームでシードをかけて争う。

※今年度の出場校数をもとに仮定



県大会 (28チーム出場)

